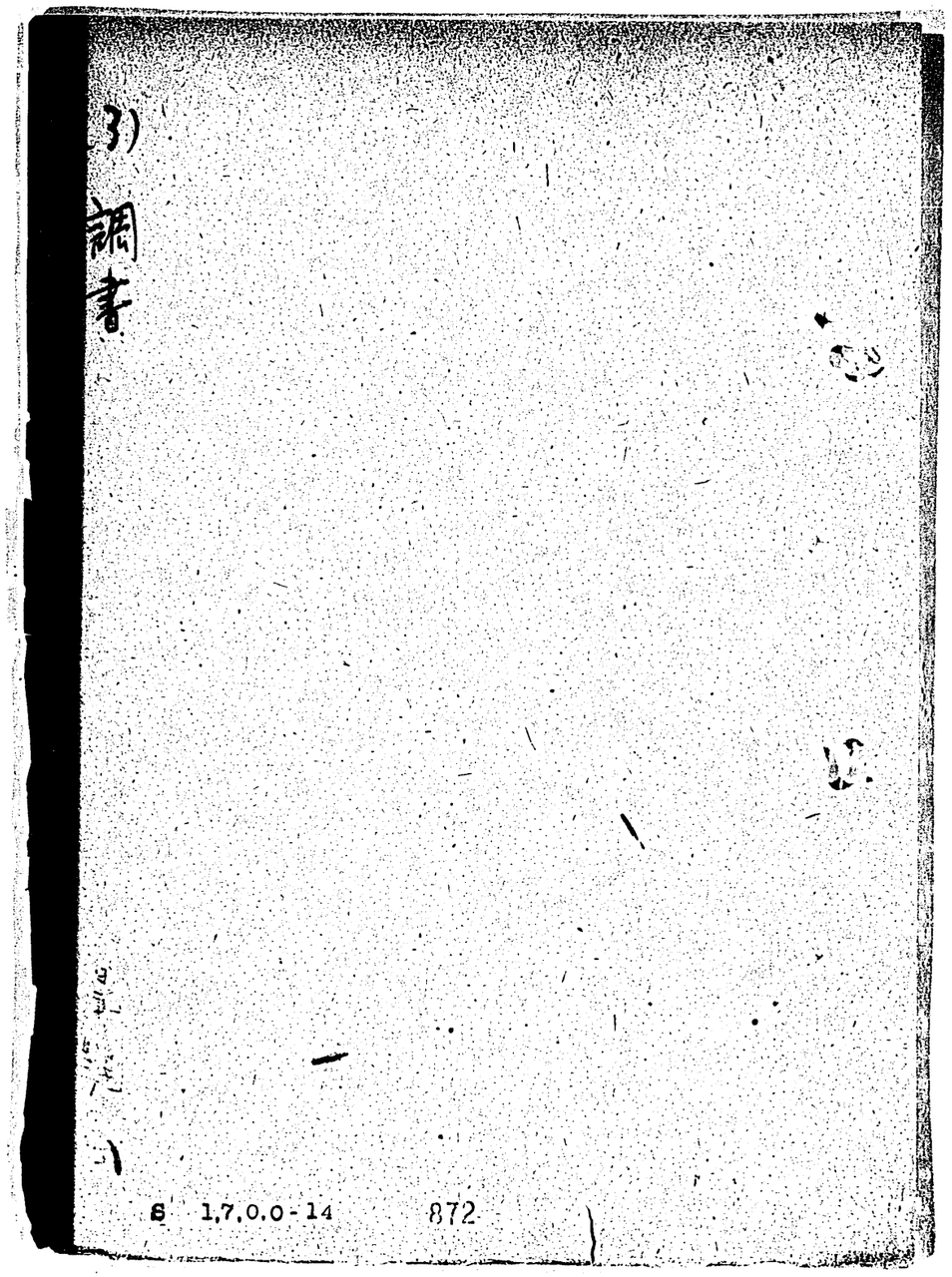

REEL No. A-1077

049

アジア歴史資料センター

秘

昭和十六年七月

南部佛印進駐佛領印度支那共同防衛ニ関スル交渉経緯概要

南部佛印進駐佛領印度支那ノ共同防衛ニ関スル交渉経緯概要

一、我方要求ノ理由

二、交渉経緯

三、條約交渉及文書内容

一、帝國ト佛領印度支那トノ関係ハ昭和十五年以来漸次改善セラレ、昭和十六年春東京ニ於テ開催セラレタル日、佛印経済交渉及「タイ」佛印國境紛争調停會議ノ成巧ハ之ニ拍車ヲ掛ケタルカノ観アリシモ未ダ満足スベキ状態ニ至ラズ、印度支那ニハ依然英米依存ノ傾向見受ケラレ、昭和十五年八月ノ松岡・「アンリー」協定及其ノ趣旨ニ基キ翌年締結セラレタル経済協定モ其ノ實施、運用ニ際シテ其ノ目的タル日、佛印間友好関係ノ増進及経済的提携緊密化ノ實ヲ充分ニ擧グルニ至ラズ、他方最近東亜ニ於ケル英、米ノ対日包圍陣ハ次第ニ英、米、蘭、重慶ノ軍事的協定ノ色彩ヲ帯ブルニ至リ、又印度支那内部ニ於テモ特ニ其ノ南部ニ於ケル状況ハ帝國トノ提携ヲ好マザル一派迄ニ「ド・ゴール」

REEL No. A-1077
0492
アジア歴史資料センター

派ノ佛人ガ英、米ト種々合作ヲ試ミル等帝國トシテ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ。
其ノ結果佛印ガ英、米ノ対日包圍陣ニ同調シテ佛本國ヲ離脱シ「シリア」
ノ如キ狀態トモナランカ直ニ佛國ニ取リ一大損失タルノミナラズ帝國トシテモ
モ亦由々シキ大事タルベク、斯ル事態ヲ豫防シ佛印ヲシテ第三國ノ侵
攻ヨリ安全ナラシメ兼テ日、佛印提携ヲ完全ナラシムルハ帝國トシテ
其ノ自存自衛並ニ東亜ニ於ケル帝國地位置保衛ノ爲絶対必要ナリ。
然ルニ右目的ヲ達センガ爲ニハ現存ノ政治的了解ニ関スル議定書ノミヲ以
テシテハ不充分ト認メラレタルヲ以テ、茲ニ帝國政府ハ佛國ヲシテ経済
的分野ニ於テノミナラズ軍事的分野ニ於テモ亦帝國ト密接ニ協力セシメ
以テ印度支那ノ安全ヲ図ランガ爲、「ヴイシー」政府ニ対シ佛印ニ共
同防衛並ニ南部佛印ニ対スル我軍ノ駐兵及海、空軍基地使用容
認方ヲ要求スルコトニ決定セリ。
二、而シテ東京ニ於テ交渉ヲ行フハ機密漏洩、交渉遷延其他ノ故障

アルベキニ鑑ミ、本件交渉ハ「ヴイシー」ニ於テ之ヲ行フコトヽシ右
ニ関スル訓令ヲ準備シ七月五日頃発電ノ豫定ナリシニ、同五日「クレー
ギー」英國大使ハ大橋次官ヲ来訪シ其ノ會談ニ依リ既ニ英國側ニ於
テ我方ノ企図ヲ相當深ク察知シ居レル模様判明セル爲右発電ヲ
見合セ居リシ處、次第ニ時日モ切迫シ来レルヲ以テ十二日ニ至リ所要ノ訓令
ヲ加藤駐佛大使ニ発出セリ。
仍而同大使ハ十四日夕刻「ダルラン」副總理ニ面會シ現下極東ノ
一般狀勢裡ニ於ケル日、佛印関係ニ対スル帝國ノ見解ヲ申述ヘタ
ル上、(一)佛領印度支那ノ共同防衛ヲ目的トスル軍事的協力、
(二)必要數ノ帝國陸、海、空軍編隊ノ南部佛印ヘノ派遣、(三)
「シエム、レアップ」、「プノンペン」、「ツーラヌ」、「ニヤ
トラン」及「コムポン。トラック」ノ空軍基地トシテノ使用、
西貢及「カムラン」湾ノ海運基地トシテノ使用及整備(四)駐屯

REEL No. A-1077
0493
アジア歴史資料センター

軍隊ノ居住、演習並ニ行動ノ自由認容及其ノ任務遂行ニ対スル特別ノ便宜供與、(五)派遣部隊使用通貨ノ提供 (六)日本軍入國ニ関スル一般的措置ノ容認及右入國方法ニ就テハ現地日、佛印當局間ニ於テ協議ヲ為スノ原則ノ容認並ニ日本軍トノ衝突防止ノ為日本軍上陸地點附近ヨリ佛印兵力ヲ一時撤去スル等適當措置方要ノ要求ヲ含レル覺書ヲ手交シ右ニ関シ補足的説明ヲ為シタルガ、就中本件申入ハ印度支那ノ共同防衛ヲ目的トスルモノニシテ我方トシテハ右ハ曩ニ帝國政府ノ保障セル佛印ノ領土保全並ニ佛印ニ対スル佛國主權ノ尊重ノ方針ニハ何等変更ヲ来サヽルモノト認ムル旨及右要求ハ熟慮ノ結果断乎タル決意ノ下ニ為サレタルモノニシテ我方トシテハ萬難ヲ排シ之ヲ決行スルノ意行間ヲナル旨申添ヘ、十九日迄ニ佛國政府ノ回答ヲ得タキ旨申入レタリ。之ニ対シ「ダルラン」副總理ハ本件ハ重大ナル要求ナルヲ以テ「ペタン」主席ニモ報告シ慎重

審議ノ上出来得ル限リ速ニ回答ヲ為スベキ旨約シタリ。

次デ加藤大使ハ十五日「ペタン」主席ニ面會シ近衛總理ヨリノ左記「メッセージ」ヲ傳達セル上同様ノ申入ヲ為シタリ。

軍事基地其他ノ諸便宜供與方ニ関スル帝國政府今回ノ申入ハ帝國ノ自存自衛ト大東亜圏ニ於ケル帝國ノ立場ヲ擁護上實ニ已ムヲ得サルニ出ヅルモノナリ

而シテ佛印領土ノ保全及ビ主權ノ尊重ニ関スル嚴肅ナル國際取極ニ依リ生ズル帝國ノ責務ハ飽ク迄之ヲ嚴守スル覺悟ニシテ、寸毫モ之ヲ避ケントスルモノニ非ルハ申ス迄モナキコトナリ。

否寧ロ佛國トノ固キ提携ト佛印ニ於ケル日佛共同防衛ニ依リ此ノ責務ヲ完全ニ果サント欲スルモノニシテ一方南方ニ於ケル現實ノ情勢ハ別ニ我大使ヲシテ貴國政府當局ニ説明セシメタル通リ最早右申入ノ遷延ヲ許サヾルニ至ラシメタリ。

REEL No. A-1077
0494
アジア歴史資料センター

右帝國政府ノ眞意ト此ノ間ノ實狀トヲ御洞察相成世界動亂ノ大局ニ着眼セラレ我政府ノ眞意ニ些カノ疑念ヲモ差挿マルヽコトナク、慮想懷我申入レヲ快諾セラレンコトヲ切望シテ已マス

本大臣ハ常ニ閣下ヲ尊敬シ閣下ノ明察勇斷ニ信賴スルガ故ニ直接閣下訴フル次第ナリ」

更ニ加藤大使ハ十七日「ダルラン」副總理ヲ訪問シ我方申入ニ對スル帝國不動ノ決意ヲ重ネテ申傳ヘ佛側ノ承諾ヲ求メタル處、「ダルラン」副總理ハ十九日迄ニハ回答スヘキ旨答ヘタリ。

一方帝國政府ハ佛國政府カ獨逸政府ニ對シ我方要求ノ緩和乃至撤去方ヲ賴ミ込ムコトアルベキヲ慮リ、斯ル場合ニハ佛側ノ依賴ヲ拒絶スルト共ニ我方要求承諾方佛側ヲ說得スル樣在獨大島大使ヲシテ獨逸政府ニ申入レシメタル外、英、米、伊、「タイ」及南方關係諸國ニ在ル我方出先官憲ニモ帝國政府ノ要求並ニ

右ニ至レル事情ヲ通報シ置ケリ。

又我方ハ十九日ノ佛側回答ヲ豫想シテ、應諾ノ場合ニハ直ニ我方ノ要求ヲ文書ニセルモノヲ交換シ、又拒絶ノ場合ニハ日本時間二十三日ノ期限ヲ附シテ最後的ニ佛國政府ノ反省並ニ再考ヲ求ル樣十九日加藤大使ニ訓電セリ。

十九日午後七時「ダルラン」副總理ハ加藤大使ノ來訪ヲ求メ、佛國政府トシテハ日本側今回ノ提案ハ其ノ性質上豫メ休戰條約ノ相手國タル獨、伊兩國ト協議スルニ非ザレバ何事モ決定シ難ク、日本側ガ急キ居ル事情ハ充分承知シ居ルヲ以テ在巴里ノ「ブノア・メシヤン」行政大臣ヲシテ「アベツツ」獨逸大使ニ協議聯絡セシメ數日中ニハ決定的ナル回答ヲ爲スコトヲ得ベシト述ベタリ。依テ加藤大使ハ右佛側回答ヲ以テ拒絶ト看做シ、二十日再ビ「ダルラン」副總理ニ面會ヲ申込ミ佛國時間二十二日午後六時迄ニ全面的受諾ノ回答方ヲ再度要求スルト共ニ武力衝突回避ノ爲ニ必要ナル訓令ヲ佛印官憲ニ對シテ發出セラレタキ旨

REEL No. A-1077
0495
アジア歴史資料センター

申入ヲ行ヘリ。

更ニ加藤大使ハ右會談後「ブノアー・メシヤン」大臣ト會見セル處佛國政府ハ我方要求ヲ承諾スル意響ナルコト判明シタルガ二十一日正午「ダルラン」副總理ハ同大使ニ対シ正式回答ヲ爲シタ多少ノ條件及希望ヲ附シテ帝國政府ノ提案ヲ受諾セリ。即チ右回答ノ主要點ハ、(一)佛國政府ハ帝國政府ノ要求ニ服セザルヲ得ザルコト、(二)佛國政府ハ日本政府ノ協力ノ下ニ印度支那領土ノ防衛ヲ確保スルコト、但シ攻撃的作戰ニハ參加セザルコト、(三)日本軍ハ駐屯ヲ必要トスル事態解消次第撤退ヲ行フベキコト、(四)日本國政府ハ印度支那ノ領土保全及印度支那獨立ニ対スル佛國ノ主權尊重ニ関シ聲明ヲ發表スルコト 而シテ右聲明ハ速カニ爲サルヽ必要アルコト等ナリ。右回答文ヲ手交セル際「ダルラン」副總理ハ同答中ニ日本ノ要求ニ服スルトノ文字ヲ用ヒタルハ「シリア」ニテハ英軍ニ抵抗シナガラ佛印ニテハ進ンテ日本ニ

手ヲ差延ベタリト内外ヨリ非難サルヽコトヲ避クル爲ニシテ、實際ハ佛印ノ防衛ニ協力スルコトニ同意シ日本側ノ要求ニ異議ヲ唱ヘザル趣旨ナルニ付御承知アリ度ク、又佛印ノ主權尊重ニ関シテハ近衛總理ヨリ「ペタン」元帥ニ宛テラレタル「メッセーヂ」ニアルガ如キ趣旨ノ聲明ヲ日本側ニ於テ至急發表サルヽコトハ佛側ニ於テ特ニ重要視シ居ル所ナリト」ト説明シ、更ニ「今一ツノ重要ナル點ハ日本側ニ於テ現在佛印ニ在ル佛印軍ヲ追ヒ立テ佛印ガ使用シ居ル諸設備ヲ要求シ又ハ艦船ノ立退等ヲ要求セラレザルコトナリ。佛側トシテハ現地佛軍ニ対シ日本軍進駐ニ抵抗セザルコトハ勿論進ンデ充分協力スベキヲ言ヒ遣ルベキモ、彼等ニ現地駐屯ノ地點ヨリ立退ヲ命スルトキハ彼等ヲ激憤セシムルニ至ルベク其ノ結果如何ナル不祥事件トナルヤモ知レザルニ付キ此ノ點ハ日本軍到着ニ際シ最モ重要ナリト思考ス」ト述ベタリ。

REEL No. A-1077
0496
アジア歴史資料センター

加藤大使ハ右會見ニ於ケル佛側ノ回答ヲ實質的ニハ我方提案ニ対スル全面的受諾ト認メタルヲ以テ我方ニ於テハ本件合意ヲ正式ノ外交文書ニ爲シ置キ度キ意響ナル旨ヲ述ベ、豫メ準備セル議定書案及交換公文案ヲ提示セリ。

而シテ右書翰ノ交換ハ「フランス」時間二十一日午前ニ完了シタルガ、佛側ヨリノ返書ニハ其ノ末段ニ於テ二十一日正午ノ佛側回答文ノ所謂ニ居ル外、別ニ(一)側佛印軍ハ補助的防衛手段ニ関スル日本國政府ノ支援方、(二)佛側ニ於ケル現存軍事施設ノ使用方、(三)佛印ノ領土保全並ニ主權ノ尊重ニ関スル帝國政府ノ可及的速カナル聲明方、(四)佛印軍ノ一時的撤退条件削除方ヲ希望スル旨ヲ記載セル文書ガ添附セラレ居タリ。

我方ハ右書翰ノ交換ヲ以テ交渉妥結ト認メ且ツ前記佛側附帯的條件及希望ノ諒トレ、速カニ佛印現地ニ於ケル細目交渉

ニ入ルコトヽシ先ツ在「ヴイシー」原田參事官ハ二十二日午後「ロシアン」外務次官ヲ訪問シ我陸、海軍武官及佛側陸海軍將官同席ノ下ニ派遣部隊行動ノ大綱等南部佛印進駐ニ関スル我方手筈ヲ提示スルト共ニ現地佛印軍ニ対シ必要ナル命令ヲ発出スル樣及右ニ関スル西國現地軍憲間ニ於テ直ニ交渉ヲ開始スル樣ト度キ旨申入レタルニ佛側ハ右ヲ了承シ其ノ結果二十三日午前在佛印澄田機関ト「ドクー」佛印總督間ニ交渉開始セラレ同日午後八時進駐ノ細目ニ関スル話合成立セリ。

本件交渉妥結ノ旨ハ二十四日在京獨、伊大使ニ二十五日英、米大使ニ夫々内報スルト共ニ帝國政府ノ眞意ヲ説明セリ。

尚二十六日正午帝國政府ハ左記聲明ヲ中外ニ発表セリ。

近時帝國ト佛領印度支那トノ関係ハ昨年八月松岡「アンリー」協定ヲ始メ累次ノ日佛協定ニ依リ急速ニ緊密ノ度ヲ加ヘ来レル

REEL No. A-1077
0490
アジア歴史資料センター

處、今般更ニ佛印ニ関スル共同防衛ニ付友好的話合ニ依リ日、佛両国政府間ニ完全ニ意見ノ一致ヲ見タリ。

帝國ハ日佛間ニ現存スル諸取極、就中佛領印度支那ノ領土保全並ニ主權ノ尊重ニ関スル嚴肅ナル約束ニヨリ生スル帝國ノ責務ハ飽ク迄之ヲ嚴守スルト共ニ日佛友好関係ノ増進ニ努メ以テ両國共榮ノ實ヲ擧ケンコトヲ期ス。

(三) 案文交渉ニ入リテヨリ二十一日佛側ハ我方提示ノ議定書案ニ対シ相當内容ヲ變更セル対案ヲ提示シ来レルヲ以テ我方ヨリ更ニ附屬書甲號(決定案)ヨリ第三項即チ期限ニ関スル規定除ケルモノト略同様ノ内容ヲ有スル第二案ヲ提示シ之ヲ基礎トシテ協議ヲ行ヘル處、佛側ニ於テハ対内関係上議定書ニ期限ヲ設定スルコトヲ固執セリ。依テ我方モ之ヲ諒トシ「佛領印度支那ノ共同防衛ヲ必要ナラシムル國際情勢ノ解消シタル場合ニハ本件議定書ノ廃止ヲ協議スベシ」トノ條項ヲ挿入センコトヲ提議シタルガ、佛側ニ於テハ「現下ノ情勢ノ存続スル限リ有效タルベシ」トノ趣旨ヲ第三項ニ入ルヽコトヲ主張セルニ付此ノ程度ハ已ムヲ得ズトシテ認ムルコトヽセリ。軍事上ノ協力ニ関スル交換公文ニ就テハ我方原案ガ殆ド其ノ儘採用セラレタリ。

次ニ文書ノ内容ヲ略説スベシ。

REEL No. A-1077

0498

アジア歴史資料センター

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」國間議定書ハ其ノ前文第一段及第二段ニ於テ本件議定書締結ノ目的ヲ明ニシ第三段ニ於テ一方我國ガ昭和十五年八月三十日ノ協定及昭和十六年五月九日ノ保障及政事治的了解ニ關スル日本國「フランス」國間議定書ニ依リ佛印ノ領土保全及佛印ニ対スル佛國ノ主權尊重ニ關シ爲セル約束ヲ、他方「フランス」國ハ前記保障議定書ニ依リ爲シタル我國ニ対抗スルガ如キ性質ノ協定又ハ了解ヲ締結セザル旨ノ約束ヲ新ニスルコトヲ明ニシ。本文第一項ニ於テ両國政府ガ佛印ノ共同防衛ノ爲軍事上協力ヲ爲スコト。第二項ニ於テ軍事上ノ協力ノ爲執ルベキ措置ハ特別取極ニ於テ定メラルベキコト。第三項ニ於テ前記諸規定ハ現下ノ情勢ノ存続スル限リニ於テノミ有效タルベキコトヲ定メ。又本文ニ於テ本件議定書ハ署名ノ日ヨリ實施セラルヽコトヲ規定セリ。（附屬書甲號參照）

軍事上ノ協力ニ關スル交換公文ハ前記議定書第二項ニ基キ両國政府間ニ軍事上ノ協力ニ關スル大綱ヲ定メタルモノニシテ、同公文ニ於テハ(一)「フランス」國ハ我國ニ対シ(イ)必要數ノ日本軍隊、艦艇及航空部隊ノ南部印度支那ヘノ派遣、(ロ)航空基地八個所、海軍基地二個所ノ使用(ハ)日本國軍ノ宿營、演習及訓練ノ權能並ニ行動ノ自由ヲ承認シ、(二)日本國軍ノ必要トスル「ピアストル」貨ノ提供ヲ受諾シ(二)「フランス」國ハ日本國軍ノ進駐ニ際シ印度支那ト不慮ノ衝突ノ発生ヲ避クル爲一切ノ有效ナル措置ヲ執ルコトヲ約シ。(三)日本軍ノ行動ニ關スル細目ハ現地日佛軍當局間ニ協定セラルベキコトヲ定メタリ。（附屬書乙號參照）

前記議定書及交換公文ハ七月二十八日國内手続完了セルヲ以テ「フランス」時間二十九日午前十一時「ヴィーシー」ニ於テ如藤大使ト

REEL No. A-1077
0499
アジア歴史資料センター

「ダルラン」副總理トノ間ニ之ガ署名調印ヲアシ、同日午後八時（日本時間）帝國情報局ヨリ議定書全文ヲ発表セリ。（交換公文ハ発表セズ）

尚戎克ノ南部佛印進駐ハ現地両國軍憲間ノ合意ニ基キ二十八日ヨリ開始セラレタルヲ以テ二十九日午後八時大本營ヨリ左ノ通発表セラレタリ。

帝國ト佛國トノ間ニ今般成立セシ佛領印度支那ニ関スル共同防衛ノ取極ニ基キ七月二十九日戎陸海軍部隊ヲ佛印ニ増派セラレタリ。

附屬書甲號

佛領印度支那ノ共同防衛ニ関スル日本國「フランス」國議定書

大日本帝國政府及「フランス」國政府ハ現下ノ國際情勢ヲ考慮シ其結果佛領印度支那ノ安全ガ脅威セラルヽ場合ニ於テハ日本國ガ東亜ニ於ケル一般的靜謐及自國ノ安全ガ危險ニ曝サレタリト為ス理由アルヲ認メ

此ノ機會ニ一方日本國ニ依リ為サレタル東亜ニ於ケル「フランス」國ノ權利及利益特ニ佛領印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ノ全部ニ対スル「フランス」國ノ主權ヲ尊重スル旨ノ約束ヲ、他方「フランス」國ニ依リ為サレタル日本國ニ対スル直接又ハ間接ニ対抗スルガ如キ性質ノ政治上、経済上又ハ軍事上ノ協力ヲ豫見

REEL No. A-1077
0500
アジア歴史資料センター

スル何等ノ協定又ハ了解ヲモ印度支那ニ関シ第三國ト締結セザル旨ノ約束ヲ新ニシ

左ノ諸記規定ヲ協定セリ

一　両國政府ハ佛領印度支那ノ共同防衛ノ為軍事上協力ヲ為スコト

二　前記協力ヲ為ス為執ルベキ措置ハ特別取極ノ目的タルベシ

三　前記諸規定ハ其ノ採用ノ動機ト為リタル情勢ノ存続スル限ニ於テノミ効力ヲ有スベシ

右證據トシテ下名ハ各國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本日ヨリ実施セラルヽ本議定書ニ署名調印セリ

昭和十六年七月二十九日即チ千九百四十一年七月二十九日「ヴィッシー」ニ於テ日本文及「フランス」文ヲ以テ本書二通ヲ作成ス

加藤外松（印）

ダルラン（印）

REEL No. A-1077
050
アジア歴史資料センター

附屬書乙號

軍事上ノ協定ニ關スル交換公文

一、七月二十九日附加藤大使発「ダルラン」副總理宛往翰（佛文）譯文

以書翰啓上致候陳者本日附ヲ以テ貴我兩國政府間ニ署名セラレタル議定書ニ關シ本使ハ閣下ニ対シ左記提議ニ対スル「フランス」國政府ノ同意ヲ本使ニ確認セラレンコトヲ要請致候

一「フランス」國政府ハ日本國ニ対シ左記措置ヲ執ルノ權限ヲ能フ

イ、必要數ノ日本國軍隊、艦艇及航空隊ノ南部印度支那ヘノ派遣

ロ、「シエムレアプ」、「ブノン・ペン」、「ツーラヌ」「ニヤトラン」、「ビエンホア」、「サイゴン」

「ソクトラン」及「コンポン・トラック」ノ八個所ノ航空基地トシテノ使用並ニ「サイゴン」及「カムラン」湾ノ海軍基地トシテノ使用

日本軍ハ前記各地ニ於テ所要ノ施設ヲ爲スベシ

ハ、前記日本國軍ハ宿營シ、演習シ及訓練スルノ權能ヲ與ヘラレ且行動ノ自由ヲ容認セラルベシ同様ニ右軍ハ其ノ職務遂行ノ爲特別ノ便宜ヲ與ヘラルベシ右ハ西原「マルタン」協定ノ規定スル諸制限ノ撤廃ヲ含ムモノトス

ニ、「フランス」國政府ハ協定議決セラルベキ様式ニ從ヒ前記日本國軍ニ対シ必要ナル通貨ヲ提供スベシ本年ニ付テハ右通貨ノ額ハ二、三、〇〇〇、〇〇〇印度支那「ピアストル」即チ月額約四、五〇〇、〇〇〇印度支那「ピアストル」ニ達スベク右額ハ從前ノ諸協定ニ依リ規定セラルヽ「ト

REEL No. A-1077
0502
アジア歴史資料センター

ンキン」駐屯日本國軍ニ提供セラルベキ通貨ヲ含マザルモノトス

日本國政府ハ前記通貨ニ付「フランス」國政府ノ選擇ニ依リ自由圓、米帝又ハ金ヲ以テ支拂ヲ爲スノ用意アリ

二「フランス」國政府ハ前記日本國軍ノ進駐ノ大綱ヲ承認シ且印度支那トノ不慮ノ衝突ノ發生ヲ回避スル爲一切ノ有效ナル措置ヲ執ルベシ

三日本國軍ノ行動ニ關スル細目ハ現地ニ於ケル日本國軍及佛國軍當局間ニ協議決定セラルベシ

本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

昭和十六年（千九百四十一年）七月二十九日「ヴイシー」ニ於テ

加藤外松（署名）

二、七月二十九日附「ダルラン」副總理

加藤大使宛來翰（佛文）譯文

以書翰啓上致候陳者本日附ヲ以テ貴我両國政府間ニ署名セラレタル議定書ニ關シ本大臣ハ閣下ガ本日附ヲ以テ御送附相成且左ニ再錄セラルヽ書翰ニ包含セラルヽ提議ニ対スル「フランス」國政府ノ意ヲ閣下ニ確認スルノ光榮ヲ有シ候

―（加藤大使發「ダルラン」副總理宛往翰）―

本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

千九百四十一年七月二十九日「ヴイシー」ニ於テ

ダルラン（署名）

REEL No. A-1077
0503
アジア歴史資料センター

昭和十六年七月

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル交渉經緯

（附屬―諒定書及交換公文）

機密

昭一六、七、三一

外務省南洋局第二課

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル交渉經緯

一、我方要求ノ理由

二、交渉經緯

三、條約交渉及文書內容

一、帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ客年以來漸次改善セラレ、今春東京ニ於テ開催セラレタル日、佛印經濟交渉及「タイ」佛印國境紛爭調停會議ノ成功ハ之ニ拍車ヲ掛ケタカノ觀アリシモ未ダ滿足スベキ狀態ニ至ラズ、印度支那ニハ依然英米依存ノ傾向見受ケラレ、客年八月ノ松岡、「アンリー」協定及其ノ趣旨ニ基キ締結セラレタル經濟協定モ其ノ實施、運用ニ際シテ其ノ目的タル日、佛印間友好關係ノ增進及經濟的提携緊密化ノ實ヲ充分ニ揚グルニ至ラズ、他方最近東亞ニ於ケル英、米ノ對日包圍陣ハ次第ニ英、米、蘭、重慶ノ軍事的協力ノ色彩ヲ帶ブルニ至リ、又印度支那內部ニ於テモ特ニ其ノ南部ニ於ケル狀況ハ帝國トノ提携ヲ好マザル一派

REEL No. A-1077

0504

アジア歴史資料センター

亦ニ「ド・ゴール」派ノ佛人ガ英、米ト種々合作ヲ試ミル等帝國トシテ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ。其ノ結果佛印ガ英、米ノ對日包圍陣ニ同調シテ佛本國ヲ離脱シ「シリア」ノ如キ狀態トモナランカ啻ニ佛國ニ取リ一大損失タルノミナラズ帝國トシテモ亦由々シキ大事タルベク、斯ル事態ヲ豫防シ佛印ヲシテ第三國ノ侵攻ヨリ安全ナラシメ兼テ日、佛印提携ヲ完全ナラシムルハ帝國トシテ其ノ自存自衛並ニ南方政策推進ノ爲絶對必要ナリ。然ルニ右目的ヲ達センガ爲ニハ現存ノ政治的了解ニ關スル議定書ノミヲ以テシテハ不充分ト認メラレタルヲ以テ、茲ニ帝國政府ハ佛國ヲシテ經濟的分野ニ於テノミナラズ軍事的分野ニ於テモ亦帝國ト密接ニ協力セシメ以テ印度支那ノ安全ヲ圖ランガ爲、「ヴイシー」政府ニ對シ佛印ノ共同防衛並ニ南部佛印ニ對スル我軍ノ駐兵及海、空軍基地使用容認方ヲ要求スルコトニ決定セル次第ナリ。

二、而シテ東京ニ於テ交渉ヲ行フハ機密漏洩、交渉遷延其他ノ故障アルヘキニ鑑ミ本件交渉ハ「ヴイシー」ニ於テ之ヲ行フコトトシ右ニ關スル訓令ヲ準備シ七月五日頃發電ノ豫定ナリシニ、同五日「クレーギト」英國大使ハ大橋次官ヲ來訪シ其ノ會談ニ依リ既ニ英國側ニ於テ我方ノ意圖ヲ相當深ク察知シ居レル模樣判明セル爲右發電ヲ見合セ居リシ處、次第ニ時日モ切迫シ來レルヲ以テ十二日ニ至リ所要ノ訓令ヲ加藤駐佛大使ニ發出セリ。

仍而同大使ハ十四日夕刻「ダルラン」副總理ニ面會シ現下極東ノ一般狀勢裡ニ於ケル日、佛印關係ニ對スル帝國ノ見解ヲ申述ヘダル上、(一)佛領印度支那ノ共同防衛ヲ目的トスル軍事的協力、(二)必要數ノ帝國陸、海、空軍編隊ノ南部佛印ヘノ派遣、(三)「シエム、レアップ」、「プノンペン」、「ツーラン」、「ニヤトラン」、「ピエンホア」、西貢、「ソクトラン」及「コムポン・トラック」ノ空軍基地トシテノ使用、西貢及「カムラン」灣ノ海運基地トシ

REEL No. A-1077
0505
アジア歴史資料センター

テノ使用及警備(四)駐屯軍隊ノ居住、演習並ニ行動ノ自由認容及其ノ任務遂行ニ對スル特別ノ便宜供與、(五)派遣部隊使用通貨ノ提供(六)日本軍入國ニ關スル一般的措置ノ容認及右入國方法ニ就テハ現地日、佛印當局間ニ於テ協議ヲ爲スノ原則ノ容認並ニ日本軍トノ衝突防止ノ爲日本軍上陸地點附近ヨリ佛印兵力ヲ一時撤去スル等適當措置方等ノ要求ヲ盛レル覺書ヲ手交シ右ニ關シ補足的説明ヲ爲サレタルガ、就中今次申入ハ印度支那ノ共同防衛ヲ目的トスルモノニシテ我方トシテハ右ハ曩ニ帝國政府ノ保障セル佛印ノ領土保全並ニ佛印ニ對スル佛國主權ノ尊重ノ方針ニハ何等變更ヲ來サザルモノト認ムル旨及今次要求ハ熟考ノ結果斷乎タル決意ノ下ニ爲サレタルモノニシテ我方トシテハ萬難ヲ排シ之ヲ決行スルノ意嚮ナル旨申添ヘタル上、十九日迄ニ佛國政府ノ回答ヲ得タキ旨申出テタリ。

「ダルラン」副總理ハ右ハ重大ナル要求ナルヲ以テ「ペタン」主席ニモ報告シ愼重審議ノ上出來得ル限リ速ニ回答ヲ爲ス

ベキ旨約セリ。

次デ加藤大使ハ十五日「ペタン」主席ニ面會シ近衛總理ヨリノ左記「メッセーヂ」ヲ傳達セル上同樣ノ申入ヲ爲セリ。

【軍事基地其他ノ諸便宜供與方ニ關スル帝國政府今回ノ申入ハ帝國ノ自存自衛ト大東亞圏ニ於ケル帝國ノ立場ノ擁護上實ニ已ムヲ得サルニ出ズルモノナリ

而シテ佛印領土ノ保全及主權ノ尊重ニ關スル嚴肅ナル國際取極ニ依リ生スル帝國ノ責務ハ飽ク迄之ヲ嚴守スル覺悟ニシテ、寸毫トモ雖モ之ヲ避ケントスルモノニ非ルハ申ス迄モナキコトナリ

否寧ロ佛國トノ固キ提携ト佛印ニ於ケル日佛共同防衛ニ依リ此ノ責務ヲ完全ニ果サント欲スルモノニシテ一方南方ニ於ケル現實ノ情勢ハ別ニ我大使ヲシテ貴國政府當局ニ説明セシメタル通リ最早右申入ノ遷延ヲ許サザルニ至ラシメタリ。

右帝國政府ノ眞意ト此間ノ實情トヲ御洞察相成世界動亂ノ大局ニ

REEL No. A-1077
0506
アジア歴史資料センター

着セラレ我政府ノ眞意ニ些カノ疑念ヲモ差挾マルルコトナク、虚心担懐我申入レヲ快諾セラレンコトヲ切望シテ已マス本大臣ハ常ニ閣下ヲ尊敬シ閣下ノ明察勇斷ニ信頼スルカ故ニ直接閣下ニ訴フル次第ナリ」

更ニ加藤大使ハ十七日「ダルラン」副總理ヲ訪問シ我方申入ニ對スル帝國不動ノ決意ヲ電ネテ申傳ヘ佛側ノ承諾ヲ求メタル處、「ダルラン」副總理ハ十九日迄ニハ回答スヘキ旨答ヘタリ

一方帝國政府ハ佛國政府カ獨逸政府ニ對シ我方要求ノ緩和乃至撤去方ヲ賴ミ込ムコトアルベキヲ慮リ、斯ル場合ニハ佛側ノ依賴ヲ拒絶スルト共ニ我方要求承諾方佛側ヲ説得スル樣在獨大島大使ヲシテ獨逸政府ニ申入レシメタル外、英、米、伊、「タイ」及南方關係諸國ニ我方出先官憲ニモ帝國政府ノ要求並ニ右ニ至レル事情ヲ通報シ置ケリ。

又我方ハ十九日ノ佛側回答ヲ豫想シテ、應諾ノ場合ニハ直ニ我方

ノ要求ヲ文書ニセルモノヲ交換シ、又拒絶ノ場合ニハ日本時間二十三日ノ期限ヲ附シテ最後的ニ佛國政府ノ反省並ニ再考ヲ求ムル樣十九日加藤大使ニ訓電シ置ケリ。

十九日午後七時「ダルラン」副總理ハ加藤大使ノ來訪ヲ求メ、佛國政府トシテハ日本側今回ノ提案ハ其ノ性質上豫メ休戰條約ノ相手國タル獨、伊兩國ト協議スルニ非ザレバ何事モ決定シ難ク、日本側カ急キ居ル事情ハ充分承知シ居ルヲ以テ在巴里ノ「ブノア・メシャン」行政大臣ヲシテ「アベッツ」獨逸大使ニ協議聯絡セシメ數日中ニハ決定的ナル回答ヲ爲スコトヲ得ベシト述ベタリ

加藤大使ハ右佛側回答ヲ以テ拒絶ト看做シ、二十日再ビ「ダルラン」副總理ニ面會ヲ申込ミ佛國時間二十二日午後六時迄ニ全面的受諾ノ回答方ヲ再度要求スルト共ニ佛印官憲ニ對シ武力衝突回避ノ爲ニ必要ナル訓令發出方ヲ申入ヲ行ヘリ。

更ニ加藤大使ハ右會談後「ブノア・メシャン」大臣ト會見セル結

REEL No. A-1077
0500
アジア歴史資料センター

佛國政府ハ我方要求ヲ承諾スル意嚮ナルヤト判明セルカ二十一日正午「ダルラン」副總理ハ同大使ニ對シ正式回答ヲ爲シ多少ノ條件及希望ヲ附シテ帝國政府ノ提案ヲ受諾セリ。即チ右回答ノ主要點ハ、(一)佛國政府ハ帝國政府ノ要求ニ服セザルヲ得ザルコト、(二)佛國政府ハ日本國政府ノ協力ノ下ニ印度支那領土ノ防衛ヲ確保スルコト、但シ攻擊的作戰ニハ參加セザルコト、(三)日本軍ハ駐屯ヲ必要トスル事態解消次第撤退ヲ行フヘキコト、(四)日本國政府ハ印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ニ對スル佛國ノ主權尊重ニ關シ聲明ヲ發表スルコト而シテ右聲明ハ速カニ爲サルル必要アルコト等ナリ。右回答文ヲ手交セル際「ダルラン」副總理ハ「回答中ニ日本ノ要求ニ服ストノ文字ヲ用ヒタルハ「シリア」ニナハ英軍ニ抵抗シ乍ラ佛印ニナハ進ンデ日本ニ手ヲ差延ベタリト内外ヨリ非難サルルコトヲ避クル爲ニテ、實際ハ佛印ノ防衛ニ協力スルコトニ同意シ日本ノ要求サルル事ニ異議ヲ唱ヘザルノ趣旨ナルニ付御承知アリ度ク、又

佛印ノ主權尊重ニ關シテハ近衛總理ヨリ「ペタン」元帥ニ宛テラレタル「メッセーヂ」ニアルガ如キ趣旨ノ聲明ヲ日本側ニ於テ至急發表サルルコトハ佛側ニ於テ特ニ重要視シ居ル所ナリ」ト説明シ、更ニ「今一ツノ重要ナル點ハ日本側ニ於テ現在佛印ニアル佛印軍ヲ追ヒ立テ佛軍ガ使用シ居ル諸設備ヲ要求シ又ハ艦船ノ立退キ等ヲ要求セラレザルコトナリ。佛側トシテハ現地佛軍ニ對シ日本軍進駐ニ抵抗セザルコトハ勿論進ンデ充分協力スベキ旨言ヒ遣ルベキモ、彼等ニ現在駐屯ノ地點ヨリ立退キヲ命ズルトキハ彼等ヲ激憤セシムルニ至ルベク其ノ結果如何ナル不祥事件トナルヤモ知レザルニ付此ノ點ハ日本軍到着ニ際シ最モ重要ナリト思考ス」ト述ベタリ。

加藤大使ハ右會見ニ於ケル佛側ノ回答ヲ實質的ニハ我方提案ニ對スル全面的受諾ト認メタルヲ以テ我方ニ於テハ本件合意ヲ正式ノ外交文書ニ爲シ置キ度キ意嚮ナル旨述ベ、豫メ準備セル議定書案

REEL No. A-1077
0508
アジア歴史資料センター

及交換公文案ヲ提示セリ。

而シテ右書翰ノ交換ハ「フランス」時間二十二日午前ニ完了シタルガ、佛側ヨリノ返書ニハ其ノ末段ニ於テ二十一日正午ノ佛側回答文ヲ附加シ居ル外、別ニ(一)佛印軍ノ補助的防禦手段ニ關スル日本國政府ノ支援方、(二)佛印ニ於ケル現存軍事施設ノ使用方、(三)佛印ノ領土保全並ニ主權ノ尊重ニ關スル帝國政府ノ可及的速カナル聲明方、(四)佛印軍ノ一時的撤退條件削除方ヲ希望スル旨ヲ記載セル文書ガ添ヘラレ居リ。

我方ハ右書翰ノ交換ヲ以テ交渉妥結ト認メ且ツ前記佛側附帶的條件及希望ハ之ヲ諒トシ、速ニ佛印現地ニ於ケル細目交渉ニ入ルコトトシ先ツ在「ヴイシー」原田參事官ハ二十二日午後「ロシアン」外務次官ヲ訪問シ我陸、海軍武官及佛側陸海軍將官同席ノ下ニ派遣部隊行動ノ大綱等南部佛印進駐ニ關スル我方手筈ヲ提示スルト共ニ現地佛印軍ニ對シ必要ナル命令ヲ發出スル樣及右ニ關スル兩

國現地軍憲間ニ於テ直ニ交渉ヲ開始スル樣シ度キ旨申入レタルニ佛側ハ右ヲ了承シ其ノ結果二十三日午前在佛印澄田機關「ドクー」佛印總督間ニ交渉開始セラレ同日午後八時進駐ノ細目ニ關スル話合成立セリ。

今次交渉妥結ノ旨ハ二十四日在京獨、伊大使ニ、二十五日英、米大使ニ夫々內報スルト共ニ帝國政府ノ眞意ヲ說明シ置ケリ。

尙二十六日正午帝國政府ハ左記聲明ヲ中外ニ發表セリ。

近時帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ昨年八月松岡「アンリー」協定ヲ於メ累次ノ日佛協定ニ依リ急速ニ緊密ノ度ヲ加ヘ來レル處、今般更ニ佛印ニ關スル共同防衛ニ付友好的話合ニ依リ日、佛兩國政府間ニ完全ニ意見ノ一致ヲ見タリ。

帝國ハ日佛間ニ現存スル諸取極、就中佛領印度支那ノ領土保全並ニ主權ノ尊重ニ關スル嚴肅ナル約束ニ依リ生ズル帝國ノ責務ハ飽ク迄之ヲ嚴守スルト共ニ日佛友好關係ノ增進ニ努メ以テ兩

REEL No. A-1077
0509
アジア歴史資料センター

國共榮ノ實ヲ擧ゲンコトヲ期ス。

一、案文交渉ニ入リテヨリ二十一日佛側ハ我方提示ノ議定書案ニ對シ相當內容ヲ變更セル對案ヲ提示シ來レルヲ以テ我方ヨリ更ニ附屬書甲號（決定案）ヨリ第三項卽チ期限ニ關スル規定ヲ除ケルモノト略同樣ノ內容ヲ有スル第二案ヲ提示シ之ヲ基礎トシテ協議ヲ行ヘル處、佛側ニ於テハ對內關係上議定書ニ期限ヲ設定スルコトヲ固執セリ。我方之ヲ諒トシ「佛領印度支那ノ共同防衛ヲ必要ナラシムル國際情勢ノ解消シタル場合ニハ本件議定書ノ廢止ヲ協議スベシ」トノ條項ヲ挿入センコトヲ提議シタルガ、佛側ニ於テハ「現下ノ情勢ノ存續スル限リ有效タルベシ」トノ趣旨ヲ第三項ニ入ルルコトヲ主張セルニ付此ノ程度ハ已ムヲ得ズトシテ認ムルコトトセリ。軍事上ノ協議ニ關スル交換公文ニ就テハ我方原案ガ殆ド其ノ儘採用セラレタリ。

次ニ文書ノ內容ヲ略說スベシ。

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」國間議定書

REEL No. A-1077
0510
アジア歴史資料センター

（其ノ前文第一段及第二段ニ於テ本件議定書締結ノ目的ヲ明ニシ第三段ニ於テ一方我國ガ昭和十五年八月三十日ノ協定及昭和十年五月九日ノ保障及政治的了解ニ關スル日本國「フランス」國間議定書ニ依リ佛印ノ領土保全及佛印ニ對スル佛國ノ主權尊重ニ關シ爲セル約束ヲ、他方「フランス」國ハ前記保障議定書ニ依リ爲シタル我國ニ對抗スルガ如キ性質ノ協定又ハ了解ヲ締結セザル旨ノ約束ヲ新ニスルコトヲ明ニシ。本文第一項ニ於テ兩國政府ガ佛印ノ共同防衛ノ爲軍事上協力ヲ爲スコト。第二項ニ於テ軍事上ノ協力ノ爲執ルベキ措置ハ特別取極ニ於テ定メラルベキコト。第三項ニ於テ前記諸規定ハ現下ノ情勢ノ存續スル限リニ於テノミ有效タルベキコトヲ定メ、又末文ニ於テ本件議定書ハ署名ノ日ヨリ實施セラルルコトヲ規定シ居レリ。（附屬書甲號參照）

軍事上ノ協力ニ關スル交換公文ハ前記議定書第二項ニ基キ兩國政府間ニ軍事上ノ協力ニ關スル大綱ヲ定メタルモノニシテ、同公文

ニ於テハ(一)「フランス」國ハ我國ニ對シ(イ)必要數ノ日本軍隊、艦艇及航空部隊ノ南部印度支那ヘノ派遣、(ロ)航空基地八個所、海軍基地二個所ノ便用(ハ)日本國軍ノ宿營、演習及訓練ノ權能並ニ行動ノ自由ヲ承認シ、(二)日本國軍ノ必要トスル「ビアストル」貨ノ提供ヲ受諾シ、(三)「フランス」國ハ日本國軍ノ進駐ニ際シ印度支那トノ不慮ノ衝突ノ發生ヲ避クル爲一切ノ有效ナル措置ヲ執ルコトヲ約シ、(三)日本軍ノ行動ニ關スル細目ハ現地日佛軍當局間ニ協定セラルベキコトヲ定メ居レリ。（附屬書乙號參照）

前記議定書及交換公文ハ七月二十八日國内手續完了セルヲ以テ「フランス」時間二十九日午前十一時「ヴィシー」ニ於テ加藤大使ト「ダルラン」副總理間ニ之ガ署名調印ヲ了シ、同日午後八時（日本時間）帝國情報局ヨリ議定書全文ヲ發表セリ。（交換公文ハ發表セズ）

REEL No. A-1077
0511
アジア歴史資料センター

尚我軍ノ南部佛印進駐ハ現地兩國軍隊間ノ合意ニ基キ二十八日ヨリ開始セラレタルヲ以テ二十九日午後八時大本營ヨリ左ノ通發表セラレタリ。

帝國ト佛國トノ間ニ今般成立セシ佛領印度支那ニ關スル共同防衛ノ取極ニ基キ七月二十九日我陸海軍部隊ヲ佛印ニ增派セラレタリ。

附屬書甲號

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」國間議定書

大日本帝國政府及「フランス」國政府ハ

現下ノ國際情勢ヲ考慮シ

其ノ結果佛領印度支那ノ安全ガ脅威セラルル場合ニ於テハ日本國ガ東亞ニ於ケル一般的靜謐及自國ノ安全ガ危險ニ曝サレタリト爲ス理由アルヲ認メ

此ノ機會ニ一方日本國ニ依リ爲サレタル東亞ニ於ケル「フランス」國ノ權利及利益特ニ佛領印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ノ全部ニ對スル「フランス」國ノ主權ヲ尊重スル旨ノ約束ヲ、他方「フランス」國ニ依リ爲サレタル日本國ニ對シ直接又ハ間接ニ對抗スルガ如キ性質ノ政治上、經濟上又ハ軍事上ノ協力ヲ豫見スル何等ノ協定又ハ了解ヲモ印度支那ニ關シ第三國ト締結セザル旨ノ約束ヲ新ニシ

REEL No. A-1077

0512

アジア歴史資料センター

左ノ諸規定ヲ協定セリ

一　兩國政府ハ佛領印度支那ノ共同防衛ノ爲軍事上協力ヲ爲スコト

二　前記協力ノ爲執ルベキ措置ハ特別取極ノ目的タルベシ

三　前記諸規定ハ其ノ採用ノ動機ト爲リタル情勢ノ存續スル限ニ於テノミ效力ヲ有スベシ

右證據トシテ下名ハ各國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本日ヨリ實施セラルル本議定書ニ署名調印セリ

昭和十六年七月二十九日即チ千九百四十一年七月二十九日「ヴィッシー」ニ於テ日本文及「フランス」文ヲ以テ本書二通ヲ作成ス

加藤外松（印）

ダルラン（印）

附屬書乙號

軍事上ノ協力ニ關スル交換公文

「七月二十九日附加藤大使發「ダルラン」副總理宛往翰（佛文）譯文

以書翰啓上致候陳者本日附ヲ以テ貴我兩國政府間ニ署名セラレタル議定書ニ關シ本使ハ閣下ニ對シ左記提議ニ對スル「フランス」國政府ノ同意ヲ本使ニ確認セラレンコトヲ要請致候

一「フランス」國政府ハ日本國ニ對シ左記措置ヲ執ルノ權限ヲ能フ

イ、必要數ノ日本國軍隊、艦艇及航空隊ノ南部印度支那ヘノ派遣

ロ、「シエムレアプ」、「プノンペン」、「ツーラヌ」、「ニヤトラン」、「ビエンホア」、「サイゴン」、「ソクトラン」及「コンポンポトラツク」ノ八個所ノ航空基地トシテノ使用並ニ「サイゴン」及「カムラン」灣ノ海軍基地トシテノ使用

日本軍ハ前記各地ニ於テ所要ノ施設ヲ爲スベシ

ハ、前記日本國軍ハ宿營シ、演習シ及訓練スルノ權能ヲ與ヘラレ

REEL No. A-1077

0513

アジア歴史資料センター

且行動ノ自由ヲ容認セラルベシ同樣ニ右軍ハ其ノ職務遂行ノ爲
特別ノ便宜ヲ與ヘラルベシ右ハ西原「マルタン」協定ノ規定ス
ル諸制限ノ撤廢ヲ含ムモノトス
二、「フランス」國政府ハ協議決定セラルベキ樣式ニ從ヒ前記日
本國軍ニ對シ必要ナル通貨ヲ提供スベシ本年ニ付テハ右通貨ノ
額ハ二三、〇〇〇、〇〇〇印度支那「ピアストル」卽チ月額約
四、五〇〇、〇〇〇〇印度支那「ピアストル」ニ達スベク右額ハ
從前ノ諸協定ニ依リ規定セラルル「トンキン」駐屯日本國軍ニ
提供セラルベキ通貨ヲ含マザルモノトス
日本國政府ハ前記通貨ニ付「フランス」國政府ノ選擇ニ依リ自
由圓、米弗又ハ金ヲ以テ支拂ヲ爲スノ用意アリ
三「フランス」國政府ハ前記日本國軍ノ進駐ノ大綱ヲ承認シ且印度
支那トノ不慮ノ衝突ノ發生ヲ回避スル爲一切ノ有效ナル措置ヲ執
ルベシ
四日本國軍ノ行動ニ關スル細目ハ現地ニ於ケル日本國軍及佛國軍當

局間ニ協議決定セラルベシ

本使ハ玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

昭和十六年（千九百四十一年）七月二十九日「ヴイシー」ニ於テ

加藤外松（署名）

敬具

一七月二十九日附「ダルラン」副總理
加藤大使宛來翰（佛文）譯文

以書翰啓上致候陳者本日附ヲ以テ貴我兩國政府間ニ署名セラレタル
議定書ニ關シ本大臣ハ閣下ガ本日附ヲ以テ御送附相成且左ニ再錄セ
ラルル書翰ニ包含セラルル提議ニ對スル「フランス」國政府ノ同意
ヲ閣下ニ確認スルノ光榮ヲ有シ候

一（加藤大使發「ダルラン」副總理宛往翰）一

本大臣ハ玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

千九百四十一年七月二十九日「ヴイシー」ニ於テ

ダルラン（署名）

REEL No. A-1077
0514
アジア歴史資料センター

條約局長殿

機密

昭一六、七、三一

外務省南洋局第二課

昭和十六年七月

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル交渉經緯

（附屬ー議定書及交換公文）

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル交渉經緯

一、我方要求ノ理由

二、交渉經緯

三、條約交渉及文書內容

一、帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ客年以來漸次改善セラレ、今春東京ニ於テ開催セラレタル日、佛印經濟交渉及「タイ」佛印國境紛爭調停會議ノ成功ハ之ニ拍車ヲ掛ケタカノ觀アリシモ未ダ滿足スベキ狀態ニ至ラズ、印度支那ニハ依然英米依存ノ傾向見受ケラレ、客年八月ノ松岡、「アンリー」協定及之ニ其ノ趣旨ニ基キ締結セラレタル經濟協定モ其ノ實施、運用ニ際シテ其ノ目的タル日、佛印間友好關係ノ增進及經濟的提携緊密化ノ實ヲ充分ニ揚グルニ至ラズ、他方最近東亞ニ於ケル英、米ノ對日包圍陣ハ次第ニ英、米、蘭、重慶ノ軍事的協力ノ色彩ヲ帶ブルニ至リ、又印度支那內部ニ於テモ特ニ其ノ南部ニ於ケル狀況ハ帝國トノ提携ヲ好マザル一派

REEL No. A-1077

0515

アジア歴史資料センター

亦ニ「ド・ゴール」派ノ佛人ガ英、米ト種々合作ヲ試ミル等帝國トシテ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ、其ノ結果佛印ガ英、米ノ對日包圍陣ニ同調シテ佛本國ヲ離脱シ「シリア」ノ如キ狀態トモナランカ啻ニ佛國ニ取リ一大損失タルノミナラズ帝國トシテモ亦由々シキ大事タルベク、斯ル事態ヲ豫防シ佛印ヲシテ第三國ノ侵攻ヨリ安全ナラシメ兼テ日、佛印提携ヲ完全ナラシムルハ帝國トシテ其ノ自存自衛並ニ南方政策推進ノ爲絶對必要ナリ。然ルニ右目的ヲ達センガ爲ニハ現存ノ政治的了解ニ關スル議定書ノミヲ以テシテハ不充分ト認メラレタルヲ以テ、茲ニ帝國政府ハ佛國ヲシテ經濟的分野ニ於テノミナラズ軍事的分野ニ於テモ亦帝國ト密接ニ協力セシメ以テ印度支那ノ安全ヲ圖ランガ爲、「ヴイシー」政府ニ對シ佛印ノ共同防衛並ニ南部佛印ニ對スル我軍ノ駐兵及海、空軍基地使用容認方ヲ要求スルコトニ決定セル次第ナリ。

二、而シテ東京ニ於テ交渉ヲ行フハ機密漏洩、交渉遷延其他ノ故障アルヘキニ鑑ミ本件交渉ハ「ヴイシー」ニ於テ之ヲ行フコトトシ右ニ關スル訓令ヲ準備シ七月五日頃發電ノ豫定ナリシニ、同五日「クレーキー」英國大使ハ大橋次官ヲ來訪シ其ノ會談ニ依リ既ニ英國側ニ於テ我方ノ基圖ヲ相當深ク察知シ居レル模樣判明セル爲右發電ヲ見合セ居リシ處、次第ニ時日モ切迫シ來レルヲ以テ十二日ニ至リ所要ノ訓令ヲ加藤駐佛大使ニ發出セリ。

仍而同大使ハ十四日夕刻「タルラン」副總理ニ面會シ現下極東ノ一般狀勢裡ニ於ケル日、佛印關係ニ對スル帝國ノ見解ヲ申述ヘタル上、(一)佛領印度支那ノ共同防衛ヲ目的トスル軍事的協力、(二)必要數ノ帝國陸、海、空軍編隊ノ南部佛印ヘノ派遣、(三)「シエム、レアップ」、「プノンペン」、「ツーラン」、「ニヤトラン」、「ビエンホア」、西貢、「ソクトラン」及「コムポン。トラック」ノ空軍基地トシテノ使用、西貢及「カムラン」灣ノ海運基地トシ

REEL No. A-1077
0516
アジア歴史資料センター

テノ使用及整備(四)駐屯軍除ノ居住、演習並ニ行動ノ自由認容及其ノ任務遂行ニ對スル特別ノ便宜供與、(五)派遣部隊使用通貨ノ提供(六)日本軍入國ニ關スル一般的措置ノ容認及右入國方法ニ就テハ現地日・佛印當局間ニ於テ協議ヲ爲スノ原則ノ容認並ニ日本軍トノ衝突防止ノ爲日本軍上陸地點附近ヨリ佛印兵力ヲ一時撤去スル等適當措置方等ノ要求ヲ盛レル覺書ヲ手交シ右ニ關シ補足的説明ヲ爲セルガ、就中今次申入ハ印度支那ノ共同防衛ヲ目的トスルモノニシテ我方トシテハ右ハ襲ニ帝國政府ノ保障セル佛印ノ領土保全並ニ佛印ニ對スル佛國主權ノ尊重ノ方針ニハ何等變更ヲ來サザルモノト認ムル旨及今次要求ハ熟考ノ結果斷乎タル決意ノ下ニ爲サレタルモノニシテ我方トシテハ萬難ヲ排シ之ヲ決行スルノ意嚮ナル旨申添ヘタル上、十九日迄ニ佛國政府ノ回答ヲ得タキ旨申出テタル處、「ダルラン」副總理ハ右ハ重大ナル要求ナルヲ以テ「ペタン」主席ニモ報告シ愼重審議ノ上出來得ル限リ速ニ回答ヲ爲ス

ベキ旨約セリ。

次デ加藤大使ハ十五日「ペタン」主席ニ面會シ近衛總理ヨリノ左記「メッセーヂ」ヲ傳達セル上同樣ノ申入ヲ爲セリ。

【軍事基地其他ノ諸便宜供與方ニ關スル帝國政府今回ノ申入ハ帝國ノ自存自衛ト大東亞圈ニ於ケル帝國ノ立場ノ擁護上實ニ已ムヲ得サルニ出ズルモノナリ

而シテ佛印領土ノ保全及主權ノ尊重ニ關スル嚴肅ナル國際取極ニ依リ生スル帝國ノ責務ハ飽ク迄之ヲ嚴守スル覺悟ニシテ、寸毫ト雖モ之ヲ避ケントスルモノニ非ルハ申ス迄モナキコトナリ

否寧ロ佛國トノ固キ提携ト佛印ニ於ケル日佛共同防衛ニ依リ此ノ責務ヲ完全ニ果サント欲スルモノニシテ一方南方ニ於ケル現實ノ情勢ハ別ニ我大使ヲシテ貴國政府當局ニ説明セシメタル通リ最早右申入ノ遷延ヲ許サザルニ至ラシメタリ。

右帝國政府ノ眞意ト此間ノ實情トヲ御洞察相成世界動亂ノ大局ニ

REEL No. A-1077

0510

アジア歴史資料センター

着眼セラレ我政府ノ眞意ニ些カノ疑念ヲモ差挾マルルコトナク、虚心担懐我申入レヲ快諾セラレンコトヲ切望シテ已マス

本大臣ハ常ニ閣下ヲ尊敬シ閣下ノ明察勇斷ニ信賴スルカ故ニ直接閣下ニ訴フル次第ナリ」

更ニ加藤大使ハ十七日「タルラン」副總理ヲ訪問シ我方申入ニ對スル帝國不動ノ決意ヲ氣ネテ申傳ヘ佛側ノ承諾ヲ求メタル處、「ダルラン」副總理ハ十九日迄ニハ回答スヘキ旨答ヘタリ

一方帝國政府ハ佛國政府カ猶逸政府ニ對シ我方要求ノ緩和乃至撤去方ヲ賴ミ込ムコトアルベキヲ慮リ、斯ル場合ニハ佛側ノ依賴ヲ拒絶スルト共ニ我方要求承諾方佛側ヲ説得スル樣在獨大島大使ヲシテ獨逸政府ニ申入レシメタル外、英、米、伊、「タイ」及南方關係諸國ノ出先官憲ニモ帝國政府ノ要求並ニ右ニ至レル事情ヲ通報シ置ケリ。

又我方ハ十九日ノ佛側回答ヲ豫想シテ、應諾ノ場合ニハ直ニ我方

ノ要求ヲ文書ニセルモノヲ交換シ、又拒絶ノ場合ニハ日本時間二十三日ノ期限ヲ附シテ最後的ニ佛國政府ノ反省竝ニ再考ヲ求ムル樣十九日加藤大使ニ訓電シ置ケリ。

十九日午後七時「ダルラン」副總理ハ加藤大使ノ來訪ヲ求メ、佛國政府トシテハ日本側今回ノ提案ハ其ノ性質上豫メ休戰條約ノ相手國タル獨、伊兩國ト協議スルニ非ザレバ何事モ決定シ難ク、日本側カ急キ居ル事情ハ充分承知シ居ルヲ以テ在巴里ノ「ブノア・メシヤン」行政大臣ヲシテ「アベッツ」獨逸大使ニ協議聯絡セシメ數日中ニハ決定的ナル回答ヲ爲スコトヲ得ベシト述ベタリ其處デ加藤大使ハ右佛側回答ヲ以テ拒絶ト看做シ、二十日再ビ「ダルラン」副總理ニ面會ヲ申込ミ佛國時間二十二日午後六時迄ニ全面的受諾ノ回答方ヲ再度要求スルトトモニ佛印官憲ニ對シ武力衝突回避ノ爲ニ必要ナル訓令發出方ニ關シ申入ヲ行ヘリ。

更ニ加藤大使ハ右會談後「ブノア・メシヤン」大臣ト會見セル結

REEL No. A-1077
0518
アジア歴史資料センター

果佛國政府ハ我方要求ヲ承諾スル意嚮ナル旨ト判明セルガ二十一日正午「ダルラン」副總理ハ同大使ニ對シ正式回答ヲ爲シ多少ノ條件及希望ヲ附シテ帝國政府ノ提案ヲ受諾セリ。即チ右回答ノ主要點ハ、(一)佛國政府ハ帝國政府ノ要求ニ服セザルヲ得ザルコト、(二)佛國政府ハ日本國政府ノ協力ノ下ニ印度支那領土ノ防衛ヲ確保スルコト、但シ攻撃的作戰ニハ參加セザルコト、(三)日本軍ハ駐屯ヲ必要トスル事態解消次第撤退ヲ行フヘキコト、(四)日本國政府ハ印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ニ對スル佛國ノ主權尊重ニ關シ聲明ヲ發表スルコト而シテ右聲明ハ速カニ爲サルル必要アルコト等ナリ。右回答文ヲ手交セル際「ダルラン」副總理ハ「回答中ニ日本ノ要求ニ服ストノ文字ヲ用ヒタルハ「シリア」ニナハ英軍ニ抵抗シ乍ラ佛印ニテハ進ンデ日本ニ手ヲ差延ベタリト内外ヨリ非難サルルコトヲ避クル爲ニテ、實際ハ佛印ノ防衛ニ協力スルコトニ同意シ日本ノ要求サルル處ニ異議ヲ唱ヘザルノ趣旨ナルニ付御承知アリ度ク、又

佛印ノ主權尊重ニ關シテハ近衛總理ヨリ「ペタン」元帥ニ宛テラレタル「メッセーヂ」ニアルガ如キ趣旨ノ聲明ヲ日本側ニ於テ至急發表サルルコトハ佛側ニ於テ特ニ重要視シ居ル所ナリ」ト說明シ、更ニ「今一ツノ重要ナル點ハ日本側ニ於テ現在佛印ニアル佛印軍ヲ追ヒ立テ佛軍ガ使用シ居ル諸設備ヲ要求シ又ハ艦船ノ立退キ等ヲ要求セラレザルコトナリ。佛側トシテハ現地佛軍ニ對シ日本軍進駐ニ抵抗セザルコトハ勿論進ンデ充分協力スベキ旨言ヒ遣ルベキモ、彼等ニ現在駐屯ノ地點ヨリ立退キヲ命ズルトキハ彼等ヲ激憤セシムルニ至ルベク其ノ結果如何ナル不祥事件トナルヤモ知レザルニ付此ノ點ハ日本軍到着ニ際シ最モ重要ナリト思考ス」ト述ベタリ。

加藤大使ハ右會見ニ於ケル佛側ノ回答ヲ實質的ニハ我方提案ニ對スル全面的受諾ト認メタルヲ以テ我方ニ於テハ本件合意ヲ正式ノ外交文書ニ爲シ置キ度キ意嚮ナル旨述ベ、豫メ準備セル議定書案

REEL No. A-1077
0519
アジア歴史資料センター

及交換公文案ヲ提示セリ。

而シテ右書翰ノ交換ハ「フランス」時間二十二日午前ニ完了セルガ、佛側ヨリノ返書ニハ其ノ末段ニ於テ二十一日正午ノ佛側回答文ヲ附加シ居ル外、別ニ(一)佛印軍ノ補助的防禦手段ニ關スル日本國政府ノ支援方、(二)佛印ニ於ケル現存軍事施設ノ使用方、(三)佛印ノ領土保全竝ニ主權ノ尊重ニ關スル帝國政府ノ可及的速カナル聲明方、(四)佛印軍ノ一時的撤退條件削除方ヲ希望スル旨ヲ記載セル文書ガ添ヘラレ居レリ。

我方ハ右書翰ノ交換ヲ以テ交渉妥結ト認メ且ツ前記佛側附帶的條件及希望ハ之ヲ諒トシ、速ニ佛印現地ニ於ケル細目交渉ニ入ルコトトシ先ツ在「ヴイシー」原田參事官ハ二十二日午後「ロシアン」外務次官ヲ訪問シ我陸、海軍武官及佛側陸海軍將官同席ノ下ニ派遣部隊行動ノ大綱等南部佛印進駐ニ關スル我方手筈ヲ提示スルト共ニ現地佛印軍ニ對シ必要ナル命令ヲ發出スル樣及右ニ關スル兩

國現地軍憲間ニ於テ直ニ交渉ヲ開始スル樣シ度キ旨申入レタルニ佛側ハ右ヲ了承シ其ノ結果二十三日午前在佛印澄田機關「ドクー」佛印總督間ニ交渉開始セラレ同日午後八時進駐ノ細目ニ關スル話合成立セリ。

今次交渉妥結ノ旨ハ二十四日在京獨、伊大使ニ二十五日英、米大使ニ夫々內報スルト共ニ帝國政府ノ眞意ヲ說明シ置ケリ。

尙二十六日正午帝國政府ハ左記聲明ヲ中外ニ發表セリ。

近時帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ昨年八月松岡「アンリー」協定ヲ始メ累次ノ日佛協定ニ依リ急遽ニ緊密ノ要ヲ加ヘ來レル處、今般更ニ佛印ニ關スル共同防衛ニ付友好的話合ニ依リ日、佛兩國政府間ニ完全ニ意見ノ一致ヲ見タリ。

帝國ハ日佛間ニ現存スル諸取極、就中佛領印度支那ノ領土保全竝ニ主權ノ尊重ニ關スル嚴肅ナル約束ニ依リ生ズル帝國ノ責務ハ飽ク迄之ヲ嚴守スルト共ニ日佛友好關係ノ增進ニ努メ以テ兩

REEL No. A-1077
0520
アジア歴史資料センター

國共榮ノ實ヲ擧ゲンコトヲ期ス。

案文交渉ニ入リテヨリ二十一日佛側ハ我方提示ノ議定書案ニ對シ相當內容ヲ變更セル對案ヲ提示シ來レルヲ以テ我方ヨリ更ニ附屬書甲號（決定案）ヨリ第三項卽チ期限ニ關スル規定ヲ除ケルモノト略同樣ノ內容ヲ有スル第二案ヲ提示シ之ヲ基礎トシテ協議ヲ行ヘル處。佛側ニ於テハ對內關係上議定書ニ期限ヲ設定スルコトヲ固執セリ。我方之ヲ諒トシ「佛領印度支那ノ共同防衛ヲ必要ナラシムル國際情勢ノ解消シタル場合ニハ本件議定書ノ廢止ヲ協議スベシ」トノ條項ヲ挿入センコトヲ提議シタルガ、佛側ニ於テハ「現下ノ情勢ノ存續スル限リ有效タルベシ」トノ趣旨ヲ第三項ニ入ルルコトヲ主張セルニ付此ノ程度ハ已ムヲ得ズトシテ認ムルコトトセリ。軍事上ノ協議ニ關スル交換公文ニ就テハ我方原案ガ殆ド其ノ儘採用セラレタリ。

次ニ文書ノ內容ヲ略說スベシ。

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」國間議定書

REEL No. A-1077
0521
アジア歴史資料センター

（其ノ前文第一段及第二段ニ於テ本件議定書締結ノ目的ヲ明ニシ第三段ニ於テ一方我國ガ客年八月三十日ノ協定及本年五月九日ノ保障及政治的了解ニ關スル日本國「フランス」國間議定書ニ依リ佛印ノ領土保全及佛印ニ對スル佛國ノ主權尊重ニ關シ爲セル約束ヲ、他方「フランス」國ハ前記保障議定書ニ依リ爲シタル我國ニ對抗スルガ如キ性質ノ協定又ハ了解ヲ締結セザル旨ノ約束ヲ新ニスルコトヲ明ニシ。本文第一項ニ於テ兩國政府ガ佛印ノ共同防衛ノ爲軍事上協力ヲ爲スコト。第二項ニ於テ軍事上ノ協力ノ爲執ルベキ措置ハ特別取極ニ於テ定メラルベキコト。第三項ニ於テ前記諸規定ハ現下ノ情勢ノ存續スル限リニ於テノミ有效タルベキコトヲ定メ、又末文ニ於テ本件議定書ハ署名ノ日ヨリ實施セラルルコトヲ規定シ居レリ。（附屬書甲號參照）

軍事上ノ協力ニ關スル交換公文ハ前記議定書第二項ニ基キ兩國政府間ニ軍事上ノ協力ニ關スル大綱ヲ定メタルモノニシテ、同公文

ニ於テハ(一)「フランス」國ハ我國ニ對シ(イ)必要數ノ日本軍隊、艦艇及航空部隊ノ南部印度支那ヘノ派遣、(ロ)航空基地八個所、海軍基地二個所ノ使用(ハ)日本國軍ノ宿營、演習及訓練ノ權能並ニ行動ノ自由ヲ承認シ、(二)日本國軍ノ必要トスル「ピアストル」貨ノ提供ヲ受諾シ。(三)「フランス」國ハ日本國軍ノ進駐ニ際シ印度支那トノ不慮ノ衝突ノ發生ヲ避クル爲一切ノ有效ナル措置ヲ執ルコトヲ約シ、(三)日本軍ノ行動ニ關スル細目ハ現地日佛軍當局間ニ協定セラルベキコトヲ定メ居レリ。（附屬書乙號參照）

前記議定書及交換公文ハ七月二十八日國内手續完了セルヲ以テ「フランス」時間二十九日午前十一時「ヴィシー」ニ於テ加藤大使「ダルラン」副總理間ニ之ガ署名調印ヲ了シ、同日午後八時（日本時間）帝國情報局ヨリ議定書全文ヲ發表セリ。（交換公文ハ發表セズ）

REEL No. A-1077
0522
アジア歴史資料センター

尚我軍ノ南部佛印進駐ハ現地南國軍憲間ノ合意ニ基キ二十八日ヨリ開始セラレタルヲ以テ二十九日午後八時大本營ヨリ左ノ通發表セラレタリ。

帝國ト佛國トノ間ニ今般成立セシ佛領印度支那ニ關スル共同防衛ノ取極ニ基キ七月二十九日我陸海軍部隊ヲ佛印ニ增派セラレタリ。

附屬書甲號

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」國間議定書

大日本帝國政府及「フランス」國政府ハ

現下ノ國際情勢ヲ考慮シ

其ノ結果佛領印度支那ノ安全ガ脅威セラルル場合ニ於テハ日本國ガ東亞ニ於ケル一般的靜謐及自國ノ安全ガ危險ニ曝サンタリト爲ス理由アルヲ認メ

此ノ機會ニ一方日本國ニ依リ爲サレシル東亞ニ於ケル「フランス」國ノ權利及利益特ニ佛領印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ノ全部ニ對スル「フランス」國ノ主權ヲ尊重スル旨ノ約束ヲ、他方「フランス」國ニ依リ爲サレタル日本國ニ對シ直接又ハ間接ニ對抗スルガ如キ性質ノ政治上、經濟上又ハ軍事上ノ協力ヲ豫見スル何等ノ協定又ハ了解ヲ印度支那ニ關シ第三國ト締結セザル旨ノ約束ヲ新ニシ

REEL No. A-1077

0523

アジア歴史資料センター

左ノ諸規定ヲ協定セリ

一　兩國政府ハ佛領印度支那ノ共同防衛ノ爲軍事上協力ヲ爲スコト

二　前記協力ノ爲執ルベキ措置ハ特別取極ノ目的タルベシ

三　前記諸規定ハ其ノ採用ノ動機ト爲リタル情勢ノ存續スル限ニ於テノミ效力ヲ有スベシ

右證據トシテ下名ハ各國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本日ヨリ實施セラルル本議定書ニ署名調印セリ

昭和十六年七月二十九日即チ千九百四十一年七月二十九日「ヴィシー」ニ於テ日本文及「フランス」文ヲ以テ本書二通ヲ作成ス

加藤外松（印）

ダルラン（印）

附屬書乙號

軍事上ノ協力ニ關スル交換公文

「七月二十九日附加藤大使發「ダルラン」副總理宛往翰（佛文）譯文

以書翰啓上致候陳者本日附ヲ以テ貴我兩國政府間ニ署名セラレタル議定書ニ關シ本使ハ閣下ニ對シ左記提議ニ對スル「フランス」國政府ノ同意ヲ本使ニ確認セラレンコトヲ要請致候

一「フランス」國政府ハ日本國ニ對シ左記措置ヲ執ルノ權限ヲ能フ

イ、必要數ノ日本國軍隊、艦艇及航空隊ノ南部印度支那ヘノ派遣

ロ、「シエムレアプ」、「プノン・ペン」、「ツーラヌ」、「ニヤトラン」、「ビエンホア」、「サイゴン」、「ソクトラン」及「コンポン・トラック」ノ八個所ノ航空基地トシテノ使用並ニ「サイゴン」及「カムラン」灣ノ海軍基地トシテノ使用

日本軍ハ前記各地ニ於テ所要ノ施設ヲ爲スベシ

ハ、前記日本國軍ハ宿營シ、演習シ及訓練スルノ權能ヲ與ヘラレ

REEL No. A-1077

0524

アジア歴史資料センター

且行動ノ自由ヲ容認セラルベシ同樣ニ右軍ハ其ノ職務遂行ノ爲特別ノ便宜ヲ與ヘラルベシ右ハ西原「マルタン」協定ノ規定スル諸制限ノ撤廢ヲ含ムモノトス

二、「フランス」國政府ハ協議決定セラルベキ樣式ニ從ヒ前記日本國軍ニ對シ必要ナル通貨ヲ提供スベシ本年ニ付テハ右通貨ノ額ハ二三、〇〇〇、〇〇〇印度支那「ピアストル」即チ月額約四、五〇〇、〇〇〇印度支那「ピアストル」ニ達スベク右額ハ從前ノ諸協定ニ依リ規定セラルル「トンキン」駐屯日本國軍ニ提供セラルベキ通貨ヲ含マザルモノトス

日本國政府ハ前記通貨ニ付「フランス」國政府ノ選擇ニ依リ自由轉、米弗又ハ金ヲ以テ支拂ヲ爲スノ用意アリ

三、「フランス」國政府ハ前記日本國軍ノ進駐ノ大綱ヲ承認シ且印度支那トノ不慮ノ衝突ノ發生ヲ回避スル爲一切ノ有效ナル措置ヲ執ルベシ

四、日本國軍ノ行動ニ關スル細目ハ現地ニ於ケル日本國軍及佛國軍當

局間ニ協議決定セラルベシ

本使ハ玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　　敬具

昭和十六年（千九百四十一年）七月二十九日「ヴイシー」ニ於テ

加藤外松（署名）

記

七月二十九日附「ダルラン」副總理

加藤大使宛來翰（佛文）譯文

以書翰啓上致候陳者本日附ヲ以テ貴我兩國政府間ニ署名セラレタル議定書ニ關シ本大臣ハ閣下ガ本日附ヲ以テ御送附相成旦左ニ再錄セラルル書翰ニ包含セラルル提議ニ對スル「フランス」國政府ノ同意ヲ閣下ニ確認スルノ光榮ヲ有シ候

一（加藤大使發「ダルラン」副總理宛往翰）一

本大臣ハ玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　　敬具

千九百四十一年七月二十九日「ヴイシー」ニ於テ

ダルラン（署名）

REEL No. A-1077
0525
アジア歴史資料センター

「三宅喜二郎元大使寄贈史料」

S.52.6

※註、重複セリト雖モ、後日編纂の便に供する為合纂す。

REEL No. A-1077

0526

アジア歴史資料センター

秘

昭和十六年七月

南部佛印進駐佛領印度支那ト共同防衛ニ関スル交渉経緯概要

外務省

A700 9-2

南部佛印進駐佛領印度支那ト共同防衛ニ関スル交渉経緯概要

一、我方要求ノ理由

二、交渉経緯

三、関係約文及文書内容

一、帝國ト佛領印度支那トノ関係ハ昭和十五年以来漸次改善ニ向ヒ、昭和十六年春東京ニ於テ開催セラレタル日、佛印経済交渉及「タイ」佛印國境紛争調停会議ノ成功ハ之ニ拍車ヲ掛ケタルカノ観アリシモ未タ満足スベキ状態ニ至ラズ、印度支那ニハ依然英米依存ノ傾向見受ケラレ、昭和十五年八月ノ松岡・「ハリー」協定及其ノ趣旨ニ基ク翌年締結セラレタル経済協定モ其ノ實施、運用ニ際シテ其ノ目的タル日、佛印間友好関係ノ増進及経済的提携緊密化ノ實ヲ充分ニ揚グルニ至ラズ、他方最近東亜ニ於ケル英、米ノ対日包圍陣ハ次第ニ英、米、蘭、重慶、軍事的協定ノ色彩ヲ帯ブルニ至リ、又印度支那内部ニ於テモ特ニ其ノ南部ニ於ケル状況ハ帝國トノ提携ヲ好マザル一派迄ニ「ゴール」

外務省

REEL No. A-1077

0520

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

西貢及「カムラン」灣ノ海運基地トシテノ使用及監視四箇所ノ「トラン」及「コムポン・トラック」ノ陸軍基地トシテノ使用「シエム・レアップ」、「プノンペン」、「ツーラス」、「ニト」(二)必要ノ際ハ海、陸軍編成ノ第一部佛印ノ派遣、(三)「ポー一」ノ上。(一)佛領印度支那ノ共同防衛ヲ目的トスル事ヲ明カニシ、佛印問題ニ対スル各国ノ見解ニ相違ノ一部ノ形勢ニ於テハ日佛印関係ニ対スル各国ノ見解ニ相違ノ為メ佛印大使ハ四月八日刻「ダラン」湾ノ海軍基地ノ使用ヲ拒絶シ、佛印大使ハ流去セリ。

日仏間ノ交渉ハ「ポー一」ニ於テ行ハレタルコトハ既ニ報ジタル通リニシテ、交渉ハ十三日ニ始マリ、十四日三回ノ交渉ヲ行ヒ、訓令ニ関スル訓令ヲ準備シ、十四日夕刻電報、到着シ、翌日「ポー一」共同大使ハ大橋次官ヲ来訪シ、其ノ會談ノ結果ニ基ク「ポー一」共同大使ハ本国ニ於テモ亦仏国ト密接ニ協力セントスル訓令ヲ受ケ、仏国ヲ相当深ク察知シ信ジ得ル模様ナリ。

日仏間ノ交渉ハ「ポー一」ニ於テ行ハレタルコトハ既ニ報ジタル通リニシテ、交渉ハ十三日ニ始マリ、十四日三回ノ交渉ヲ行ヒ、訓令ニ関スル訓令ヲ準備シ、十四日夕刻電報、到着シ、翌日「ポー一」共同大使ハ大橋次官ヲ来訪シ、其ノ會談ノ結果ニ基ク「ポー一」共同大使ハ本国ニ於テモ亦仏国ト密接ニ協力セントスル訓令ヲ受ケ、仏国ヲ相当深ク察知シ信ジ得ル模様ナリ。

仏国ハ英米ト提携シ、合作ヲ試ミル事ハ仏国トシテ同意シ難キモノ

共ニ結果佛印ガ英、米、対日包囲陣ニ同調シテ佛本国ヲ離脱シ「ソリア」

ノ如キ状態トモナラバ、独ニ佛国ニ取リ大損失ヲ与ヘルノミナラズ仏国トシテ

モ亦自ラ大事タルベク、斯ル事態ヲ防ク為佛印ヲシテ第三国ノ侵

攻ヨリ安全ナラシメ兼テ日佛印提携ヲ完全ナラシムル、仏国トシテ

其ノ自衛対策ニ東亜ニ於ケル仏国ノ立場ハ、衛、防絶対必要ナリ。

然ルニ右目的ヲ達センガ為ニハ現在ノ政治的ノ解釈ニ関スル議定書ニヨリ以

テ、ハ不充分ト認メラレタルヲ以テ、茲ニ仏国政府ハ佛国ト経済

的分野ニ於テハ勿論軍事的分野ニ於テモ亦仏国ト密接ニ協力セシメ

以テ印度支那ノ安全ヲ図ラントス、「ヴィシー」政府ニ対シ佛印共

同防衛ニ関シ佛印ニ対スル共同、防衛、及ビ、軍事基地使用等

総ヲ要求スルコトニ決定セリ。

アジア歴史資料センター

REEL No. A-1077

事件ノ起因並ニ行動ノ同盟認定及其ノ住物送付ニ対スル特別ノ便宜法(五)法廷部隊用通貨提供(六)日本軍人国ニ関シ

ハ二般諸情報ノ通知及右人国ノ法ニ就ニハ現地日佛印當局間

ニ於テ協議ヲ為スノ原則ノ決議並ニ日本軍ト衝突ヲ生ジ為日

本軍上陸地點附近ヨリ佛印兵カ一時撤去スル等適當措置ヲ

ノ要求ヲ感シタル實事ヨリ手交シ右ニ関シ適当説明ヲ為シタルガ、

十年ノ印度シナ部、南国ヲ通ジテ同盟ニ対シ兵力上ニ於テ

國ニ佛國政府ハ佛印領土ニ進駐ニ対スル佛國ノ權

ノ動機ノ存ニ於テ佛印ニ於ケル日本人及在留邦人ノ

國政府ハ佛印ニ於ケル日本ノ特殊ノ地位ヲ認ム

ノ為ニ日本ノ佛印ニ於ケル軍事的行動ニ対シ

ト雖モ佛印ニ於ケル日本ノ特殊ノ地位ヲ認ム

ルニ出ヅルモノナリ

而シテ佛印領土ノ保全及ニ主權ノ尊重ニ関スル厳肅ナル國際取決

ニ依リ生ズル佛國ノ責務ヲ認ク之ニ厳守スル覚悟ニシテ、寸毫

ト雖ニ之ヲ侵ス如キコトヲモ非ニ中ス之モナキコトナリ。

尤モ佛國ノ同盟ノ間ニ要信ト佛印ニ於ケル日佛共同防衛ニ依リ

其分ヲ立ム全ニ果サントスルモノニシテ一方南方ニ於ケル事態ノ推移

ハ別ニ武力使ニシテ直ニ政府當局ニ説明セントスル通リ最早不

人ノ意志ニ待ツノミナラズ。

右帝國政府ノ眞意ト此ノ間ノ實狀トヲ御洞察相成世界動乱ノ大局ニ着眼セラレ我政府ノ眞意ニ些カノ疑念ヲモ差挾マルヽコトナク、虚心担懐我申入レヲ快諾セラレンコトヲ切望シテ已マス

本大臣ハ常ニ閣下ヲ尊敬シ閣下ノ明察勇斷ニ信頼スルガ故ニ直接閣下ニ訴フル次第ナリ」

更ニ加藤大使ハ十七日「ダルラン」副總理ヲ訪問シ我カ申入ニ対スル帝國不動ノ決意ヲ重ネテ申傳ヘ佛側ノ承諾ヲ求メタル處、「ダルラン」副總理ハ、十九日迄ニハ回答スヘキ旨答ヘタリ。

一方帝國政府ハ佛國政府カ獨逸政府ニ対シ我カ要求ノ緩和乃至撤廃方ヲ頼ミ込ムコトアルベキヲ慮リ、斯ル場合ニハ佛側ノ信頼ヲ拒絶スルト共ニ我カ要求ノ承諾方佛側ヲ說得スル様在獨大島大使ヲシテ獨逸政府ニ申入レシメタル外、英、米、伊、「ソ」及南方關係諸國ニ在ル我カ出先官憲ニモ帝國政府ノ要求並ニ方ニ至レル事情ヲ通報シ置ケリ。

又我方ハ十九日ノ佛側回答ヲ緩和シ、應諾ノ場合ニハ直ニ我カ要求ヲ内容トスル旨ニ協定ヲ交渉シ、又拒絶ノ場合ニハ日本時間二十三日ノ期限ヲ附シテ最後的ニ佛國政府ノ反省方ニ再考ヲ求ムル様十九日加藤大使ニ訓電セリ。

十九日午後七時「ダルラン」副總理ハ加藤大使ノ来訪ヲ求メ、佛國政府トシテハ、日本側今回ノ提案ハ其ノ性質上誤メ休戰條約ノ相手国タル獨、伊兩國ト協議スルニ非サレハ、何事モ決定シ難ク、日本側ガ急キ居ル事情ハ充分承知シ居ルヲ以テ直ニ「ブノア・メシヤン」次官ヲシテ「アベッツ」獨逸大使ニ協議聯絡セシメ數日中ニハ決定的ナル回答ヲ爲スコトヲ得ベシト述ベタリ 依テ加藤大使ハ右佛側回答ヲ以テ拒絶ト看做シ、二十日再ビ「ダルラン」副總理ニ面會ヲ申込ミ佛國時間二十二日午後六時迄ニ全面的受諾ノ回答アリタシト再度要求スルト共ニ我カ斷乎タル決意ノ爲ニ必要ナル訓令ヲ佛印官憲ニ對シテ發出セラレ度キ旨

外務省

外務省

REEL No. A-1077

0530

アジア歴史資料センター

[illegible]ノ行ヘリ。

更ニ加藤大使ハ右會談後「アノア・メシヤン」大臣ト會見セル處佛國政府ハ我方要求ニ承諾スル意響トスルコト判明シタルガ二十一日正午「ダルラン」副總理ハ同大使ニ対シ正式回答ヲ爲シタル所條件及希望ヲ[illegible]佛國政府ノ提案ヲ受諾シ、即チ右回答ノ主要點ハ、(一)佛國政府ハ帝國政府ノ要求ニ服スルコト、(二)佛國政府ハ日本政府ノ協力ノ下ニ印度支那領土ノ防衛ヲ確保スルコト、但シ交戦的不戦ニハ參加セザルコト、(三)日本軍ハ駐屯ヲ必要トスル事態解消次第撤退ヲ行フベキコト、(四)日本國政府ハ印度支那ノ領土保全及印度支那駐屯ニ対スル佛國ノ主權尊重ニ關シ聲明ヲ發表スルコト、而シテ右聲明ハ速ヤカニ爲サルヽ必要アルコト等ナリ、右回答文ヲ手交セル際「ダルラン」副總理ハ回答中ニ日本ノ要求ニ服スルトノ文字ヲ用ヒタルハ「シリア」ニテハ英軍ニ抵抗セザリシガ佛印ニテハ進ンテ日本ニ

[illegible]ノ防衛ニ協力スルコトニ同意シ日本側ノ要求ニ異議ヲ唱ヘザル迄ノ意ト共ニ、實際ハ佛印防衛ニ協力スルコトニ同意シ日本側ノ要求ニ異議ヲ唱ヘザル迄ノ意ト共ニ、又佛印ノ主權尊重ニ關シテハ近衛總理ヨリ「ベタン」元帥ニ宛テラレタル「メッセージ」ニアルガ如キ趣旨ハ聲明ヲ日本側ニ發表サルヽコトハ佛側ニ於テ特ニ重要視シ居ル所ナリト」ト説明シ、更ニ「ダルラン」副總理ハ佛印ニ在ル佛印軍ヲ追ヒ立テ佛印ヲ使用シ居ル諸設備ヲ要求シ又ハ戦船ノ立退等ヲ要求シタルコトヨリ、佛側トシテハ現地佛軍ニ対シ日本軍進駐ニ抵抗セザルコトハ勿論進ンデ充分協力スベキ旨ニ達スベキモ、彼等ニ現地司令官・地點ヨリ立退ヲ命ズルトキハ彼等ノ激憤ニ堪ヘザルニ至ルベク其ノ結果如何ナル不祥事件トナルヤモ知レザルニ付キ此ノ點ハ日本軍到着ニ際シ最ニ重要ナリト思考ス」ト述ベタリ。

REEL No. A-1077

0531

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

REEL No. A-1077

尚今後更ニ佛印ニ関スル共同防衛ニ付友好的話合ニ依リ日、佛両國政府間ニ完全ニ意見ノ一致ヲ見タリ。

尚國ハ日佛間ニ現存スル諸取極、就中佛領印度支那ノ領土保全並ニ主權ノ尊重ニ関スル最肅ナル約束ニヨリ生スル帝國ノ責務ハ飽ク迄之ヲ眼ヒ守スルト共ニ日佛友好関係ノ増進ニ努メ以テ両國共榮ノ實ヲ擧ゲンコトヲ期ス。

(三) 案文交渉ニ入リテヨリ二十一日佛側ハ我方提示ノ議定書案ニ対シ相當内容ヲ變更セル対案ヲ提示シ来レルニ付テ我方ヨリ更ニ附屬書甲號(決定案)ヨリ第三項即チ期限ニ関スル規定ヲ除ケルモノト略同様ノ内容ヲ有スル第二案ヲ提示シ之ヲ基礎トシテ協議ヲ行ヘル處、佛側ニ於テハ対内関係上議定書ニ期限ヲ設定スルコトヲ固執セリ。依テ我方モ之ニ諒トシ「佛領印度支那ノ共同防衛ヲ必要ナラシムル國際情勢ノ解消シタル場合ニハ本件議定書ノ廃止ヲ協議スベシ」トノ條項ヲ挿入セシコトヲ提議シタルガ、佛側ニ於テハ「現下ノ情勢ノ存続スル限リ有效タルベシ」トノ趣旨ヲ第三項ニ入レルコトヲ主張シ二十四ノ程度ハ已ムヲ得ストシテ認ムルトセリ。「軍事上ノ協力ニ関スル交換公文ニ就テハ我方原案ガ殆ド其ノ儘採用セラレタリ。

次ニ文書ノ内容ヲ略説スベシ。

REEL No. A-1077

0533

アジア歴史資料センター

佛領印度支那ノ共同防衛ニ関スル日本國「フランス」國間議定書ハ其ノ前文第一段及第二段ニ於テ本件議定書締結ノ目的ヲ明ニシ第三段ニ於テ一方我國ガ昭和十五年八月三十日ノ協定及昭和十六年五月九日ノ保障及政治的了解ニ関スル日本國「フランス」國間議定書ニ依リ佛印ノ領土保全及佛印ニ対スル佛國ノ主權尊重ニ関シ爲ヒル約束ヲ、他方「フランス」國ハ前記保障議定書ニ依リ爲シタル我國ニ対抗スルガ如キ性質ノ協定又ハ了解ヲ締結セザル旨ノ約束ヲ新ニスルコトヲ明ニシ。本文第一項ニ於テ両國際ガ佛印ノ共同防衛ノ爲軍事上協力ヲ爲スコト。第二項ニ於テ軍事上ノ協力ノ爲執ルベキ措置ハ特別取極ニ於テ定メラルベキコト、第三項ニ於テ前記諸規定ハ現下ノ情勢ノ存続スル限リニ於テノミ有效タルベキコトヲ定メ。又本文ニ於テ本件議定書ハ署名ノ日ヨリ實施セラルヽコトヲ規定セリ。（附屬書甲號參照）

軍事上ノ協力ニ関スル交換公文ハ前記議定書第二項ニ基キ両國際間ニ軍事上ノ協力ニ関スル大綱ヲ定メタルモノニシテ、同公文ニ於テハ(一)「フランス」國ハ我國ニ対シ(イ)必要數ノ日本軍隊、艦艇及航空部隊ノ南部印度支那ヘノ派遣、(ロ)航空基地ハ個所、海軍基地二個所ノ使用(ハ)日本國軍ノ宿營、演習及訓練ノ權能並ニ行動ノ自由ヲ承認シ、(ニ)日本國軍ノ必要トスル「ロアストル」貨ノ提供ヲ受諾シ(二)「フランス」國ハ日本國軍ノ進駐ニ際シ印度支那ト不意ノ衝突ノ発生ヲ避クル爲一切ノ有效ナル措置ヲ執ルコトヲ約シ。(三)日本軍ノ行動ニ関スル細目ハ現地日佛軍當局間ニ協定セラルベキコトヲ定メタリ。（附屬書乙號參照）

前記議定書及交換公文ハ七月二十八日國内手続完了セルヲ以テ「フランス」時間二十九日午前十一時「ヴィーシー」ニ於テ加藤大使ト

REEL No. A-1077

0534

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

REEL No. A-1077

「メルラン」面談ノ間ニ必ズ電話ヲ以テ、同日午後八時（日本時間）帝國情報局ヨリ議定書全文ヲ発表セリ。（必要ニ応ジ追電セス）

尚我軍ノ南部佛印進駐、現地両國軍憲間ノ合意ニ基キ二十八日ヨリ開始シタルヲ以テ二十九日午後八時大本營ヨリ左ノ通発表セラレリ。

帝國ト佛國ト間ニ今般成立セシ佛領印度支那ニ関スル共同防衛ノ取極ニ基キ二月二十九日我陸海軍部隊ヲ佛印ニ増派シタリ。

又ハ了解ヲモ印度支那ニ関シ第三国ト締結セザル旨ノ約束ヲ新ニシ

左ノ諸規定ヲ協定セリ

一　両国政府ハ仏領印度支那ノ共同防衛ノ為軍事上協力スルコト

二　右ノ為執ルベキ措置ハ特別取極ノ目的タルベシ

三　前記諸規定ハ其ノ採用ノ動機ト為リタル情勢ノ存続スル限ニ於テノミ効力ヲ有スベシ

右証拠トシテ下名ハ各国政府ヨリ正当ノ委任ヲ受ケ今日ヨリ実施セラルル本議定書ニ署名調印セリ

昭和十六年七月二十九日即チ千九百四十一年七月二十九日「ヴィッシー」ニ於テ日本文及「フランス」文ヲ以テ本書二通ヲ作成ス

加藤外松（印）

ダルラン（印）

REEL No. A-1077
0536
アジア歴史資料センター

秘

附屬書 乙號

軍事上ノ協力ニ關スル交換公文

一、七月二十九日附加藤大使發「ダルラン」副總理宛往翰（佛文）譯文

以書翰啓上致候陳者本日附ヲ以テ貴我両國政府間ニ署名セラレタ議定書ニ関シ本使ハ閣下ニ対シ左記提議ニ対スル「フランス」國政府ノ同意ヲ本使ニ確認セラレンコトヲ要請致候

一「フランス」國政府ハ日本國ニ対シ左記措置ヲ取ルノ權限ヲ能フ

イ、必要數ノ日本國軍隊、艦艇及航空隊ノ南部印度支那ヘノ派遣

ロ、「シエムレアプ」、「プノンペン」、「ツーラヌ」、「ニヤトラン」、「ビエンホア」、「サイゴン」、「ソクトラン」及「コンポンソトラック」ノ八個所ノ航空基地トシテノ使

用並ニ「サイゴン」及「クムラン」湾ノ海軍基地トシテノ使用

日本軍ハ前記各地ニ於テ所要ノ施設ヲ為スベシ

ハ前記日本軍ハ宿營ト演習ト及訓練スルノ權能ヲ與ヘラレ且行動ノ自由ヲ容認セラルベシ同樣ニ右軍ハ其職務遂行ノ為特別ノ便宜ヲ與ヘラルベシ右ハ西原「マルタン」協定ノ規定スル諸制限ノ撤廢ヲ含ムモノトス

二、「フランス」國政府ハ協議決定セラルベキ樣式ニ從ヒ前記日本國軍ニ対シ必要ナル通貨ヲ提供スベシ本年ニ付テハ右通貨ノ額ハ二三、〇〇〇、〇〇〇印度支那「ピアストル」即チ月額約四、五〇〇、〇〇〇印度支那「ピアストル」ニ達スベク右額ハ從前ノ諸協定ニ依リ規定セラルル「トンキン」駐屯日本國軍ニ提供セラルベキ通貨ヲ含マザルモノトス

日本國政府ハ前記通貨ニ付「フランス」國政府ノ選擇ニ

REEL No. A-1077

0530

アジア歴史資料センター

依リ自由圖、米弗又ハ金ヲ以テ支拂ヲ爲スノ用意アリ

二、「フランス」國政府ハ前記日本國軍ノ進駐ノ大綱ヲ承認シ且印度支那トノ不慮ノ衝突ノ發生ヲ回避スル爲一切ノ有效ナル措置ヲ執ルベシ

三、日本國軍ノ行動ニ關スル細目ハ現地ニ於ケル日本國軍及佛國軍當局間ニ協議決定セラルベシ

本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和十六年（一九四一年）七月二十九日「ヴイシー」ニ於テ

加藤外松（署名）

二、七月二十九日附「ダルラン」副總理

加藤大使宛来翰（佛文）譯文

以書翰啓上致候陳者本日附ヲ以テ貴我兩國政府間ニ署名セラレメル議定書ニ關シ本大臣ハ閣下ガ本日附ヲ以テ御送附相成且左ニ再

録セラルル書翰ニ包含セラルル提議ニ対スル「フランス」國政府ノ同意ヲ閣下ニ確認スルノ光榮ヲ有シ候

―（加藤大使発「ダルラン」副總理宛往翰）―

本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

千九百四十一年七月二十九日「ヴイシー」ニ於テ

ダルラン（署名）

REEL No. A-1077

0538

アジア歴史資料センター

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル交渉經緯

一、我方要求ノ理由

二、交渉經緯

三、條約交渉及文書內容

帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ客年以來漸次改善セラレ、今春東京ニ於テ開催セラレタル日、佛印經濟交渉及「タイ」佛印國境紛爭調停會議ノ成功ハ之ニ拍車ヲ掛ケタカノ觀アリシモ未ダ滿足スベキ狀態ニ至ラズ、印度支那ニハ依然英米依存ノ傾向見受ケラレ、客年八月ノ松岡・「アンリー」協定及曩ニ其ノ趣旨ニ基キ締結セラレタル經濟協定モ其ノ實施、運用ニ際シテ其ノ目的タル日、佛印間友好關係ノ增進及經濟的提携緊密化ノ實ヲ充分ニ揚グルニ至ラズ、他方最近東亞ニ於ケル英、米ノ對日包圍陣ハ次第ニ英、米、蘭、重慶ノ軍事的協力ノ色彩ヲ帶ブルニ至リ、又印度支那內部ニ於テモ特ニ其ノ南部ニ於ケル狀況ハ帝國トノ提携ヲ好マザル一派

機密

昭一六、七、三一

外務省南洋局第二課

昭和十六年七月

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル交渉經緯

（附屬一 議定書及交換公文）

（日本軍の南部佛印進駐）

未定稿

要推敲

REEL No. A-1077

0539

アジア歴史資料センター

亦ニ「ド・ゴール」派ノ佛人ガ英、米ト種々合作ヲ試ミル等帝國トシテ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ、其ノ結果佛印ガ英、米ノ對日包圍陣ニ同調シテ佛本國ヲ離脱シ「シリア」ノ如キ狀態トモナランカ啻ニ佛國ニ取リ一大損失タルノミナラズ帝國トシテモ亦由々シキ大事タルベク、斯ル事態ヲ豫防シ佛印ヲシテ第三國ノ侵攻ヨリ安全ナラシメ兼テ日、佛印提携ヲ完全ナラシムルハ帝國トシテ其ノ自存自衛並ニ南方政策推進ノ爲絶對必要ナリ。然ルニ右目的ヲ達センガ爲ニハ現存ノ政治的了解ニ關スル議定書ノミヲ以テシテハ不充分ト認メラレタルヲ以テ、茲ニ帝國政府ハ佛國ヲシテ經濟的分野ニ於テノミナラズ軍事的分野ニ於テモ亦帝國ト密接ニ協力セシメ以テ印度支那ノ安全ヲ圖ランガ爲、「ヴイシー」政府ニ對シ佛印ノ共同防衛並ニ南部佛印ニ對スル我軍ノ駐兵及海、空軍基地使用容認方ヲ要求スルコトニ決定セル次第ナリ。

二、而シテ東京ニ於テ交渉ヲ行フハ機密漏洩、交渉遷延其他ノ故障アルヘキニ鑑ミ本件交渉ハ「ヴイシー」ニ於テ之ヲ行フコトトシ右ニ關スル訓令ヲ準備シ七月五日頃發電ノ豫定ナリシニ、同五日「クレーキー」英國大使ハ大橋次官ヲ來訪シ其ノ會談ニ依リ既ニ英國側ニ於テ我方ノ基圖ヲ相當深ク察知シ居レル模樣判明セル爲右發電ヲ見合セ居リシ處、次第ニ時日モ切迫シ來レルヲ以テ十二日ニ至リ所要ノ訓令ヲ加藤駐佛大使ニ發出セリ。

仍而同大使ハ十四日夕刻「タルラン」副總理ニ面會シ現下極東ノ一般狀勢裡ニ於ケル日、佛印關係ニ對スル帝國ノ見解ヲ申述ヘタル上、(一)佛領印度支那ノ共同防衛ヲ目的トスル軍事的協力、(二)必要數ノ帝國陸、海、空軍編隊ノ南部佛印ヘノ派遣、(三)「シエム、レアップ」、「プノンペン」、「ツーラン」、「ニヤトラン」、「ビエンホア」、西貢、「ソクトラン」及「コムポン。トラック」ノ空軍基地トシテノ使用、西貢及「カムラン」灣ノ海運基地トシ

REEL No. A-1077

0540

アジア歴史資料センター

テノ使用及整備(四)駐屯軍隊ノ居住、演習並ニ行動ノ自由認容及其ノ任務遂行ニ對スル特別ノ便宜供與、(五)派遣部隊使用通貨ノ提供(六)日本軍入國ニ關スル一般的措置ノ容認及右入國方法ニ就テハ現地日、佛印當局間ニ於テ協議ヲ爲スノ原則ノ容認並ニ日本軍トノ衝突防止ノ爲日本軍上陸地點附近ヨリ佛印兵力ヲ一時撤去スル等適當措置方等ノ要求ヲ盛レル覺書ヲ手交シ右ニ關シ補足的説明ヲ爲セルガ、就中今次申入ハ印度支那ノ共同防衛ヲ目的トスルモノニシテ我方トシテハ右ハ襲ニ帝國政府ノ保障セル佛印ノ領土保全並ニ佛印ニ對スル佛國主權ノ尊重ノ方針ニハ何等變更ヲ來サヽルモノト認ムル旨及今次要求ハ熟考ノ結果斷乎タル決意ノ下ニ爲サレタルモノニシテ我方トシテハ萬難ヲ排シ之ヲ決行スルノ意嚮ナル旨申添ヘタル上、十九日迄ニ佛國政府ノ回答ヲ得タキ旨申出テタル處、「ダルラン」副總理ハ右ハ重大ナル要求ナルヲ以テ「ペタン」主席ニモ報告シ愼重審議ノ上出來得ル限リ速ニ回答ヲ爲ス

ベキ旨約セリ。

次デ加藤大使ハ十五日「ペタン」主席ニ面會シ近衛總理ヨリノ左記「メッセーヂ」ヲ傳達セル上同樣ノ申入ヲ爲セリ。

「軍事基地其他ノ諸便宜供與方ニ關スル帝國政府今回ノ申入ハ帝國ノ自存自衛ト大東亞圈ニ於ケル帝國ノ立場ノ擁護上實ニ已ムヲ得サルニ出ズルモノナリ

而シテ佛印領土ノ保全及主權ノ尊重ニ關スル嚴肅ナル國際敬約ニ依リ生スル帝國ノ責務ハ飽ク迄之ヲ嚴守スル覺悟ニシテ、寸毫ト雖モ之ヲ違ケントスルモノニ非ルハ申ス迄モナキコトナリ

否寧ロ佛國トノ固キ提携ト佛印ニ於ケル日佛共同防衛ニ依リ此ノ責務ヲ完全ニ果サント欲スルモノニシテ一方南方ニ於ケル現實ノ情勢ハ別ニ我大使ヲシテ貴國政府當局ニ説明セシメタル通リ最早右申入ノ遷延ヲ許ササルニ至ラシメタリ。

右帝國政府ノ眞意ト此間ノ實情トヲ御洞察相成世界動亂ノ大局ニ

REEL No. A-1077

0541

アジア歴史資料センター

着眼セラレ我政府ノ眞意ニ些カノ疑念ヲモ差挾マルルコトナク、虚心担懐我申入レヲ快諾セラレンコトヲ切望シテ已マス

本大臣ハ常ニ閣下ヲ尊敬シ閣下ノ明察勇斷ニ信賴スルカ故ニ直接閣下ニ訴フル次第ナリ」

更ニ加藤大使ハ十七日「ダルラン」副總理ヲ訪問シ我方申入ニ對スル帝國不動ノ決意ヲ重ネテ申傳ヘ佛側ノ承諾ヲ求メタル處、「ダルラン」副總理ハ十九日迄ニハ回答スヘキ旨答ヘタリ

一方帝國政府ハ佛國政府カ獨逸政府ニ對シ我方要求ノ緩和乃至撤去方ヲ賴ミ込ムコトアルベキヲ慮リ、斯ル場合ニハ佛側ノ依賴ヲ拒絶スルト共ニ我方要求承諾方佛側ヲ説得スル樣在獨大島大使ヲシテ獨逸政府ニ申入レシメタル外、英、米、伊、「タイ」及南方關係諸國ノ出先官憲ニモ帝國政府ノ要求並ニ右ニ至レル事情ヲ通報シ置ケリ。

又我方ハ十九日ノ佛側回答ヲ豫想シテ、應諾ノ場合ニハ直ニ我方

ノ要求ヲ文書ヨセルモノヲ交換シ、又拒絶ノ場合ニハ日本時間二十三日ノ期限ヲ附シテ最後的ニ佛國政府ノ反省竝ニ再考ヲ求ムル樣十九日加藤大使ニ訓電シ置ケリ。

十九日午後七時「ダルラン」副總理ハ加藤大使ノ來訪ヲ求メ、佛國政府トシテハ日本側今回ノ提案ハ其ノ性質上豫メ休戰條約ノ相手國タル獨、伊兩國ト協議スルニ非ザレバ何事モ決定シ難ク、日本側カ急キ居ル事情ハ充分承知シ居ルヲ以テ在巴里ノ「ブノア・メシヤン」行政大臣ヲシテ「アベッツ」獨逸大使ニ協議聯絡セシメ數日中ニハ決定的ナル回答ヲ爲スコトヲ得ベシト述ベタリ其處デ加藤大使ハ右佛側回答ヲ以テ拒絶ト看做シ、二十日再ビ「ダルラン」副總理ニ面會ヲ申込ミ佛國時間二十二日午後六時迄ニ全面的受諾ノ回答方ヲ再度要求スルトトモニ佛印官憲ニ對シ武力衝突回避ノ爲ニ必要ナル訓令發出方ニ關シ申入ヲ行ヘリ。

更ニ加藤大使ハ右會談後「ブノア・メシヤン」大臣ト會見セル結

REEL No. A-1077

0542

アジア歴史資料センター

果佛國政府ハ我方要求ヲ承諾スル意嚮ナル旨ト例明セルガ二十一日正午「ダルラン」副總理ハ同大使ニ對シ正式回答ヲ爲シ多少ノ條件及希望ヲ附シテ帝國政府ノ提案ヲ受諾セリ。即チ右回答ノ主要點ハ、(一)佛國政府ハ帝國政府ノ要求ニ服セザルヲ得ザルコト、(二)佛國政府ハ日本國政府ノ協力ノ下ニ印度支那領土ノ防衛ヲ確保スルコト、但シ攻擊的作戰ニハ參加セザルコト、(三)日本軍ハ駐屯ヲ必要トスル事態解消次第撤退ヲ行フベキコト、(四)日本國政府ハ印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ニ對スル佛國ノ主權尊重ニ關シ聲明ヲ發表スルコト而シテ右聲明ハ速カニ爲サルル必要アルコト等ナリ。右回答文ヲ手交セル際「ダルラン」副總理ハ「回答中ニ日本ノ要求ニ服ストノ文字ヲ用ヒタルハ「シリア」ニテハ英軍ニ抵抗シ乍ラ佛印ニテハ進ンデ日本ニ手ヲ差延ベタリト內外ヨリ非難サルルコトヲ避クル爲ニテ、實際ハ佛印ノ防衛ニ協力スルコトニ同意シ日本ノ要求サルル處ニ異議ヲ唱ヘザルノ趣旨ナルニ付御承知アリ度ク、又

佛印ノ主權尊重ニ關シテハ近衛總理ヨリ「ペタン」元帥ニ宛テラレタル「メッセーヂ」ニアルガ如キ趣旨ノ聲明ヲ日本側ニ於テ至急發表サルルコトハ佛側ニ於テ特ニ重要視シ居ル所ナリ」ト說明シ、更ニ「今一ツノ重要ナル點ハ日本側ニ於テ現在佛印ニアル佛印軍ヲ追ヒ立テ佛軍ガ使用シ居ル諸設備ヲ要求シ又ハ艦船ノ立退キ等ヲ要求セラレザルコトナリ。佛側トシテハ現地佛軍ニ對シ日本軍進駐ニ抵抗セザルコトハ勿論進ンデ充分協力スベキ旨言ヒ遺ルベキモ、彼等ニ現在駐屯ノ地點ヨリ立退キヲ命ズルトキハ彼等ヲ激憤セシムルニ至ルベク其ノ結果如何ナル不祥事件トナルヤモ知レザルニ付此ノ點ハ日本軍到着ニ際シ最モ重要ナリト思考ス」ト述ベタリ。

加藤大使ハ右會見ニ於ケル佛側ノ回答ヲ實質的ニハ我方提案ニ對スル全面的受諾ト認メタルヲ以テ我方ニ於テハ本件合意ヲ正式ノ外交文書ニ爲シ置キ度キ意嚮ナル旨述ベ、豫メ準備セル議定書案

REEL No. A-1077
0543
アジア歴史資料センター

及交換公文案ヲ提示セリ。

而シテ右書翰ノ交換ハ「フランス」時間二十二日午前ニ完了セルガ、佛側ヨリノ返書ニハ其ノ末段ニ於テ二十一日正午ノ佛側回答文ヲ附加シ居ル外、別ニ(一)佛印軍ノ補助的防禦手段ニ關スル日本國政府ノ支援方、(二)佛印ニ於ケル現存軍事施設ノ使用方、(三)佛印ノ領土保全竝ニ主權ノ尊重ニ關スル帝國政府ノ可及的速カナル聲明方、(四)佛印軍ノ一時的撤退條件削除方ヲ希望スル旨ヲ記載セル文書ガ添ヘラレ居レリ。

我方ハ右書翰ノ交換ヲ以テ交渉妥結ト認メ且ツ前記佛側附帶的條件及希望ハ之ヲ諒トシ、速ニ佛印現地ニ於ケル細目交渉ニ入ルコトトシ先ツ在「ヴイシー」原田參事官ハ二十二日午後「ロシアル」外務次官ヲ訪問シ我陸、海軍武官及佛側陸海軍將官同席ノ下ニ派遣部隊行動ノ大綱等南部佛印進駐ニ關スル我方手答ヲ提示スルト共ニ現地佛印軍ニ對シ必要ナル命令ヲ發出スル樣及右ニ關スル兩

國現地軍憲間ニ於テ直ニ交渉ヲ開始スル樣シ度キ旨申入レタルニ佛側ハ右ヲ了承シ其ノ結果二十三日午前在佛印澄田機關「ドクー」佛印總督間ニ交渉開始セラレ同日午後八時進駐ノ細目ニ關スル話合成立セリ。

今次交渉妥結ノ旨ハ二十四日在京獨、伊大使ニ二十五日英、米大使ニ夫々内報スルト共ニ帝國政府ノ眞意ヲ説明シ置ケリ。

尚二十六日正午帝國政府ハ左記聲明ヲ中外ニ發表セリ。

近時帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ昨年八月松岡「アンリー」協定ヲ始メ累次ノ日佛協定ニ依リ急速ニ緊密ノ度ヲ加ヘ來レル處、今般更ニ佛印ニ關スル共同防衛ニ付友好的話合ニ依リ日、佛兩國政府間ニ完全ニ意見ノ一致ヲ見タリ。

帝國ハ日佛間ニ現存スル諸取極、就中佛領印度支那ノ領土保全竝ニ主權ノ尊重ニ關スル嚴肅ナル約束ニ依リ生ズル帝國ノ責務ハ飽ク迄之ヲ嚴守スルト共ニ日佛友好關係ノ增進ニ努メ以テ兩

REEL No. A-1077

0544

アジア歴史資料センター

國共榮ノ實ヲ擧ゲンコトヲ期ス。

「案文交渉ニ入リテヨリ二十一日佛側ハ我方提示ノ議定書案ニ對シ相當內容ヲ變更セル對案ヲ提示シ來レルヲ以テ我方ヨリ更ニ附屬書甲號（決定案）ヨリ第三項卽チ期限ニ關スル規定ヲ除ケルモノト略同樣ノ內容ヲ有スル第二案ヲ提示シ之ヲ基礎トシテ協議ヲ行ヘル處、佛側ニ於テハ對內關係上議定書ニ期限ヲ設定スルコトヲ固執セリ。我方之ヲ諒トシ「佛領印度支那ノ共同防衛ヲ必要ナシムル國際情勢ノ解消シタル場合ニハ本件議定書ノ廢止ヲ協議スベシ」トノ條項ヲ挿入センコトヲ提議シタルガ、佛側ニ於テハ、「現下ノ情勢ノ存續スル限リ有效タルベシ」トノ趣旨ヲ第三項ニ入ルルコトヲ主張セルニ付此ノ程度ハ已ムヲ得ズトシテ認ムルコトトセリ。軍事上ノ協議ニ關スル交換公文ニ就テハ我方原案ガ殆ド其ノ儘採用セラレタリ。

次ニ文書ノ內容ヲ略述スベシ。

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」國間議定書

REEL No. A-1077

0545

アジア歴史資料センター

ハ其ノ前文第一段及第二段ニ於テ本件議定書締結ノ目的ヲ明ニシ第三段ニ於テ一方我國ガ客年八月三十日ノ協定及本年五月九日ノ保障及政治的了解ニ關スル日本國「フランス」國間議定書ニ依リ佛印ノ領土保全及佛印ニ對スル佛國ノ主權尊重ニ關シ爲セル約束ヲ、他方「フランス」國ハ前記保障議定書ニ依リ爲シタル我國ニ對抗スルガ如キ性質ノ協定又ハ了解ヲ締結セザル旨ノ約束ヲ新ニスルコトヲ明ニシ、本文第一項ニ於テ兩國政府ガ佛印ノ共同防衛ノ爲軍事上協力ヲ爲スコト、第二項ニ於テ軍事上ノ協力ノ爲執ルベキ措置ハ特別取極ニ於テ定メラルベキコト、第三項ニ於テ前記諸規定ハ現下ノ情勢ノ存續スル限リニ於テノミ有效タルベキコトヲ定メ、又末文ニ於テ本件議定書ハ署名ノ日ヨリ實施セラルルコトヲ規定シ居レリ。（附屬書甲號參照）

軍事上ノ協力ニ關スル交換公文ハ前記議定書第二項ニ基キ兩國政府間ニ軍事上ノ協力ニ關スル大綱ヲ定メタルモノニシテ、同公文

ニ於テハ(一)「フランス」國ハ我國ニ對シ(イ)必要數ノ日本軍隊、艦艇及航空部隊ノ南部印度支那ヘノ派遣、(ロ)航空基地八個所、海軍基地二個所ノ使用(ハ)日本國軍ノ宿營、演習及訓練ノ權能並ニ行動ノ自由ヲ承認シ、(二)日本國軍ノ必要トスル「ピアストル」貨ノ提供ヲ受諾シ、(二)「フランス」國ハ日本國軍ノ進駐ニ際シ印度支那トノ不慮ノ衝突ノ發生ヲ避クル爲一切ノ有效ナル措置ヲ執ルコトヲ約シ、(三)日本軍ノ行動ニ關スル細目ハ現地日佛軍當局間ニ協定セラルベキコトヲ定メ居レリ。（附屬書乙號參照）

前記議定書及交換公文ハ七月二十八日國内手續完了セルヲ以テ「フランス」時間二十九日午前十一時「ヴィシー」ニ於テ加藤大使「ダルラン」副總理間ニ之ガ署名調印ヲ了シ、同日午後八時（日本時間）帝國情報局ヨリ議定書全文ヲ發表セリ。（交換公文ハ發表セズ）

REEL No. A-1077

0546

アジア歴史資料センター

尚我軍ノ南部佛印進駐ハ現地兩國軍憲間ノ合意ニ基キ二十八日ヨリ開始セラレタルヲ以テ二十九日午後八時大本營ヨリ左ノ通發表セラレタリ。

帝國ト佛國トノ間ニ今般成立セシ佛領印度支那ニ關スル共同防衛ノ取極ニ基キ七月二十九日我陸海軍部隊ヲ佛印ニ增派セラレタリ。

附屬書甲號

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」國間議定書

大日本帝國政府及「フランス」國政府ハ

現下ノ國際情勢ヲ考慮シ

其ノ結果佛領印度支那ノ安全ガ脅威セラルル場合ニ於テハ日本國ガ東亞ニ於ケル一般的靜謐及自國ノ安全ガ危險ニ曝サレタリト爲ス理由アルヲ認メ

此ノ機會ニ一方日本國ニ依リ爲サレタル東亞ニ於ケル「フランス」國ノ權利及利益特ニ佛領印度支那ノ領土保全及印度支那防衛ノ全部ニ對スル「フランス」國ノ主權ヲ尊重スル旨ノ約束ヲ、他方「フランス」國ニ依リ爲サレタル日本國ニ對シ直接又ハ間接ニ對抗スルガ如キ性質ノ政治上、經濟上又ハ軍事上ノ協力ヲ豫見スル何等ノ協定又ハ了解ヲモ印度支那ニ關シ第三國ト締結セザル旨ノ約束ヲ新ニシ

REEL No. A-1077

0540

アジア歴史資料センター

左ノ諸規定ヲ協定セリ

一　兩國政府ハ佛領印度支那ノ共同防衛ノ爲軍事上協力ヲ爲スコト

二　前記協力ノ爲執ルベキ措置ハ特別取極ノ目的タルベシ

三　前記諸規定ハ其ノ採用ノ動機ト爲リタル情勢ノ存續スル限ニ於テノミ效力ヲ有スベシ

右證據トシテ下名ハ各國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本日ヨリ實施セラルル本議定書ニ署名調印セリ

昭和十六年七月二十九日即チ千九百四十一年七月二十九日「ヴィシー」ニ於テ日本文及「フランス」文ヲ以テ本書二通ヲ作成ス

加藤外松（印）

ダルラン（印）

附屬書乙號

軍事上ノ協力ニ關スル交換公文

（七月二十九日附加藤大使發「ダルラン」副總理宛往翰（佛文）譯文）

以書翰啓上致候陳者本日附ヲ以テ貴我兩國政府間ニ署名セラレタル議定書ニ關シ本使ハ閣下ニ對シ左記提議ニ對スル「フランス」國政府ノ同意ヲ本使ニ確認セラレンコトヲ要請致候

一「フランス」國政府ハ日本國ニ對シ左記措置ヲ執ルノ權限ヲ能フ

イ、必要數ノ日本國軍隊、艦艇及航空隊ノ南部印度支那ヘノ派遣

ロ、「シエムレアプ」、「プノンペン」、「ツーラヌ」、「ニヤトラン」、「ビエンホア」、「サイゴン」、「ソクトラン」及「コンポン・トラツク」ノ八個所ノ航空基地トシテノ使用並ニ「サイゴン」及「カムラン」灣ノ海軍基地トシテノ使用

日本軍ハ前記各地ニ於テ所要ノ施設ヲ爲スベシ

ハ、前記日本國軍ハ宿營シ、演習シ及訓練スルノ權能ヲ與ヘラレ

REEL No. A-1077

0548

アジア歴史資料センター

且行動ノ自由ヲ容認セラルベシ同樣ニ右軍ハ其ノ職務遂行ノ爲特別ノ便宜ヲ與ヘラルベシ右ハ西原「マルタン」協定ノ規定スル諸制限ノ撤廢ヲ含ムモノトス

ニ、「フランス」國政府ハ協議決定セラルベキ樣式ニ從ヒ前記日本國軍ニ對シ必要ナル通貨ヲ提供スベシ本年ニ付テハ右通貨ノ額ハ二三、〇〇〇、〇〇〇印度支那「ピアストル」即チ月額約四、五〇〇、〇〇〇印度支那「ピアストル」ニ達スベク右額ハ從前ノ諸協定ニ依リ規定セラルル「トンキン」駐屯日本國軍ニ提供セラルベキ通貨ヲ含マザルモノトス

日本國政府ハ前記通貨ニ付「フランス」國政府ノ選擇ニ依リ自由ニ、米弗又ハ金ヲ以テ支拂ヲ爲スノ用意アリ

二「フランス」國政府ハ前記日本國軍ノ進駐ノ大綱ヲ承認シ且印度支那トノ不慮ノ衝突ノ發生ヲ回避スル爲一切ノ有效ナル措置ヲ執ルベシ

三日本國軍ノ行動ニ關スル細目ハ現地ニ於ケル日本國軍及佛國軍當

局間ニ協議決定セラルベシ

本使ハ玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

昭和十六年（千九百四十一年）七月二十九日「ヴイシー」ニ於テ

加藤外松（署名）

七月二十九日附「ダルラン」副總理

加藤大使宛來翰（佛文）譯文

以書翰啓上致候陳者本日附ヲ以テ貴我兩國政府間ニ署名セラレタル議定書ニ關シ本大臣ハ閣下ガ本日附ヲ以テ御送附相成且左ニ再錄セラルル書翰ニ包含セラルル提議ニ對スル「フランス」國政府ノ同意ヲ閣下ニ確認スルノ光榮ヲ有シ候

―（加藤大使發「ダルラン」副總理宛往翰）―

本大臣ハ玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

千九百四十一年七月二十九日「ヴイシー」ニ於テ

ダルラン（署名）

REEL No. A-1077

0549

アジア歴史資料センター